

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策政策研究事業

**HIV 検査の受検勧奨のための  
性産業の事業者及び  
従事者に関する研究**

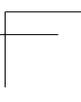
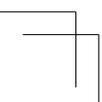
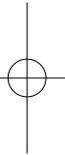
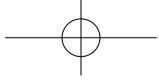
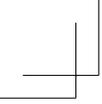
—平成 29 年度 総括・分担研究報告書—

研究代表者

**今村 顕史**

東京都立駒込病院

平成 30 (2018) 年 3 月



厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業  
「HIV 検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」  
研究分担者・研究協力者名簿（平成 29 年度）

《研究代表者》

今村 顕史 東京都立駒込病院 感染症科 部長

《研究分担者》

渡會睦子	東京医療保険大学 医療保健学部 准教授
土屋菜歩	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 助教
川名敬	日本大学医学部 産婦人科 教授

《研究協力者》 50 音順（職位略）

あや乃 日本風俗女子サポート協会  
荒木順子 特定非営利活動法人 akta  
生島嗣 特定非営利活動法人 ふれいす東京  
カエベタ 亜矢 新宿保健所  
堅多敦子 東京都福祉保健局 健康安全部エイズ・新興感染症担当課  
砂川秀樹 明治学院大学国際平和研究所

## 目次

### I. 総括研究報告

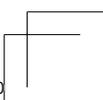
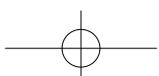
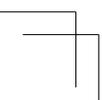
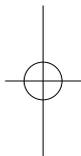
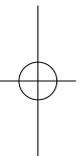
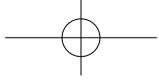
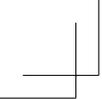
- HIV 検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究…………… 7  
研究代表者 今村 顕史（東京都立駒込病院 感染症科）

### II. 分担研究報告

1. 性産業に従事する事業者と女性従業者の実態調査と受検勧奨…………… 15  
研究分担者 渡會睦子（東京医療保健大学）
2. 性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨…………… 19  
研究分担者 今村 顕史（東京都立駒込病院 感染症科）
3. 性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨…………… 32  
＜東京における A 型肝炎の流行対策による、  
MSM へ向けた性感染流行の迅速な啓発方法の検討＞  
研究分担者 今村 顕史（東京都立駒込病院 感染症科）
4. 性感染症クリニックの実態調査と啓発…………… 38  
研究分担者：川名 敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野）
5. 「地域一般住民の性サービスに関わる実態調査と受検勧奨」…………… 41  
研究分担者：土屋菜歩（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）

- III. 研究成果の刊行に関する一覧表…………… 55

# I . 総括研究報告



## H I V検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究

研究代表者：今村顕史（東京都立駒込病院 感染症科）

研究分担者：渡會睦子（東京医療保健大学 医療保健学部）  
土屋菜歩（東北大学 東北メディカル・メガバンク機構）  
川名 敬（日本大学医学部 産婦人科）

### 研究要旨

近年は、梅毒の流行が深刻な状況となっており、若い女性の中での増加も大きな問題となっている。このことは、現代の日本においても、HIV 感染と同じ性感染症の急増する環境が、今も潜在的に存在していることを示している。その一方で、女性が従事する性産業の形態は、時代とともに急速に複雑化・多様化しており、一般市民の性サービスに対する意識や行動も大きく変化してきている。従って、潜在するハイリスク層の実態調査を行い、より感染リスクの高い対象者への受検勧奨と予防啓発を行うことが、我が国の HIV 感染症を含む性感染症対策における喫緊の課題となっている。

MSM(Men who have Sex with Men)やトランスジェンダーが従事する性産業の実態や、外国人による性産業の利用状況などについても、十分に把握されていないというのが現状である。また、平成30年に入ってから、東京を中心とした MSM において、性行為による A 型肝炎の流行が発生している。従って、このような対象者の現状把握と、より効果的な啓発方法の開発が求められている。

本研究においては、性産業に従事する女性や事業者に加えて、より感染リスクの高い MSM・トランスジェンダーの従業者の調査も行われる。さらに、企業健診や成人式でのアンケート等による地域一般住民の調査、性感染症クリニックや風俗街を有する自治体の保健所と連携した性感染症の実態調査など、より多角的な調査によって現代の性産業の現状を把握する。

従業者への調査では、プライバシーや人権についての十分な配慮、得られた情報の慎重な扱いが必要とされる。そのため、性産業従事者に直接関わる分担研究では、従業者をサポートする当事者グループ、セクシャルマイノリティーに関わる NPO の代表者、文化人類学者、行政の担当者などを協力者とする研究体制を整えた。

本研究によって、時代とともに変化してきている性産業の実態が詳細に調査される。そして、現代の性産業の多様性や複雑性に合った、より有効な啓発法の検討なども行う。さらに、自治体の担当者や連携した研究計画がすすめられることで、より実効性をもった事業としても機能するような、HIV を含む性感染症の新たな受検勧奨法の開発に繋がることが期待される。

## A.研究目的

我が国の HIV 感染症においては、性行為による感染が多くを占めているが、その流行の中心は MSM(Men who have Sex with Men)であり、日本人女性の感染者数は現時点では決して多くはない。しかしその一方で、近年起こっている梅毒の流行では、20 歳代を中心とした女性の増加が問題となっており、HIV 感染症と同じ性感染症の急増するハイリスク層が、今でも女性の中に潜在的に存在していることを改めて示している。従って、性産業における実態調査を行い、リスクの高い対象者への受検勧奨と予防啓発を行うことが喫緊の課題となっている。

しかし、女性が従事する性産業は、SNS(Social Networking Service)等の普及とともに多様化し、一般市民の性サービスに対する意識や行動も変化してきている。そして、性産業への従事者の中にも、複数の形態の店舗に従事する女性、他職をもちながら性産業に関わる女性、あるいはアルバイトとして性産業に関わる学生や主婦など、従来の受検勧奨の届かない対象者も増えている。

また、MSM やトランスジェンダーが従事する性産業の実態や、外国人による性産業の利用状況などについても、十分に把握されていないというのが現状である。更に平成 30 年に入ってから、東京を中心とした MSM において、性行為による A 型肝炎の流行が大きな問題となっている。従って、このような対象者における、現代の性感染症の背景となる現場の実態調査と、より効果的な啓発方法の開発も重要な課題である。

本研究では、性産業に関わる事業者と従事者の調査によって、多様化・複雑化している性産業の実態を明らかにする。更に、地域一般住民の調査も加えることで、現代の性産業における現状を、より多角的な実態調査によって把握する。そして、時代と共に変化してきている性産業の実態を明らかにし、その多様性・複雑性に合った新たな啓発・受検勧奨法の立案を目指す。

## B.研究方法

本研究においては、性産業に従事する女性や事業者に加えて、より感染リスクの高い MSM・トランスジェンダーの従業者の調査も行われる。更に、企業健診や成人式でのアンケート等による地域一般住民の調査、性感染症クリニックや風俗街を有する自治体の保健所と連携した性感染症の実態調査など、より多角的な調査によって現代の性産業の現状を把握する。

従業者への調査では、プライバシーや人権についての十分な配慮、得られた情報の慎重な扱いが必要とされる。そのため、性産業従事者に直接関わる分担研究では、従業者をサポートする当事者グループ、セクシャルマイノリティーに関わる NPO の代表者、文化人類学者、行政の担当者などを協力者とする研究体制を整えた。

現場の従事者にインタビュー等を行う際には、特にプライバシーの保護に配慮するとともに、偏見差別のない接遇に心がける。そして、得られた情報については、社会的な影響も考慮して慎重に扱い、対象者への迅速な還元に努める。

(各研究の具体的な研究方法については分担研究報告を参照)

## C.研究結果

### 【研究 1】性産業に従事する事業者と女性従業者の実態調査と受検勧奨（渡會）

本分担研究では、性産業に従事する事業者と女性従業者に対し、HIV を含む性感染症に関連した実態調査を行い、今後の受検勧奨へとつながる計画を立案することを目標とする。

初年度から 2 年目にかけては、(1)性産業における性感染症対策等の文献検討、(2)各都道府県公安委員会への届け出数・風俗マガジン・ウェブサイト等からの性風俗業種・稼働状況等の推測、(3)研究協力者(あや乃)との情報交換による現在の事業者と従業者の状況把握(性産業形態の種類・従事者の年齢層・客の年齢層や国籍)などの調査研究

を計画している。

2年目から3年目にかけては、性産業に従事する事業者・従事者を対象としたインタビュー調査を行うことで、従業者側の検査や教育等の性感染症対策、従業者の性感染症に対する意識の違い、性感染症検査の受検状況、予防対策の実態調査などを行う。また、最終年度の3年目には、現代における性産業の実態に合った受検勧奨法の提案を行い、今後の性産業に従事する事業者と女性従業者のHIV/性感染症検査ガイドライン作成の可能性についても検討する。

#### 【研究2-①】性産業に従事するMSMとトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨（今村）

性産業に従事するMSMは、HIV感染のハイリスク層であり、その現状の把握と対策は、今でも重要な課題の一つとなっている。また、トランスジェンダーの性産業への関わりについては、現時点でも十分に明らかとされていない。本研究の現場インタビュー等は、研究協力者の砂川秀樹が中心となり、他の協力者との連携を行いながら計画・実行していく。

初年度から2年目にかけては、(1)セックスワーク従事経験者、利用経験者への聞き取りに基づく形態などによる種別化(異性間でのセックスワークに関する先行研究も参考とする)、(2)それぞれの種別の特徴を把握(主な行為やコミュニケーションも含める)、(3)新宿エリアにおける上記の種類別の把握、(4)おおまかなマッピング(店が同定できない範囲で行う)などの研究を進める。また、東京のMSMを中心に流行が始まっているA型肝炎の予防啓発を通じて、現代における性感染症の流行への効果的な啓発方法の確立を目指す。2年目から3年目にかけては、それぞれの業種のセックスワーカーと利用者のインタビューにより、健康に関する問題を掘り起こし、その背景にある構造等の分析を行う。

インタビューにあたっては、現場との十分な信頼関係をいかに築くかということが重要である。ま

た、インタビューを実現していくこと自体が、健康に関する情報を提供するチャンネル作りにもなり、啓発の一環的な意味合いも持っていくことが期待できる。本研究は、健康情報の提供や受検勧奨に繋がり、その結果として1人1人の健康に寄与するものと考えている。

#### 【研究2-②】性産業に従事するMSMとトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨（今村） <東京におけるA型肝炎の流行対策による、MSMへ向けた性感染流行の迅速な啓発方法の検討>

本研究では、東京を中心としたMSMの、A型肝炎の流行への緊急対策を行った。その計画を進める中で、行政担当者、保健所、そして各NPO等との協力によって、医学的情報や具体的な感染予防策などを、より迅速にハイリスク層へ伝える方法を検討することができた。

性感染症の流行拡大への緊急対応としては、情報伝達の迅速性が重要な課題であった。その一方で、便を介して性行為で感染するというA型肝炎の情報を伝える際には、ゲイバッシングにつながるリスクも念頭におき、ハイリスク層へ集中して情報が流れるような配慮も必要とされた。従って、このA型肝炎の流行対策においては、一般的な感染症の流行への対応以上に、現場コミュニティと繋がっているNPO等との密接な連携が重要なポイントとなった。

対象に合った情報をまとめたチラシ等の作成、ホームページ・スマホアプリ・SNS等を利用した情報拡大など、今回の対策によって確立された啓発方法は、MSMにおける今後の性感染流行においても、ハイリスク層へ集中的に、かつ迅速に啓発情報を提供するための対策として役立つものとなるだろう。

### 【研究3】性感染症クリニックの実態調査と啓発 (川名)

H29年度は、性感染症クリニックおよび風俗街を有する自治体の保健所と連携して性感染症の実態調査の体制を確立し、クリニック、保健所への調査を実施し、課題を抽出する。H30年度には、クリニック受診者の実態把握のために、Case report form(CRF)を用いた詳細な症例調査研究を組み立て、受診者における梅毒などの治療内容とその効果判定の有無などを調べて、蔓延の原因検索を行う。H31年度に性感染症クリニックおよび一般市民に向けた啓発ツールを作成し、これをクリニックや保健所に配布するとともに、適宜、性感染症の診療ガイドラインの改訂に繋げる。

### 【研究4】地域一般住民の性サービスに関わる実態調査と受検勧奨 (土屋)

本研究では、特性に偏りの少ない地域一般住民が集まる場所・機会を選定し、地域一般住民を対象とした実態調査を実施する。アンケートには、対象者自身の性行動、金銭の授受を伴う性交渉経験の有無、HIV検査受検経験の有無、HIV検査に関する知識などを含み、疫学研究者、HIV臨床の専門家、行政関係者の3者がそれぞれの視点でアンケートの作成および結果の分析に参加する。1年目には自治体担当者や保健師と連携した「成人式の参加者を対象としたアンケート調査」を計画している。また、「企業健診での社会人アンケート調査」の準備を進める。2年目には、初年度の結果をもとに、調査対象の拡大を検討する。2～3年目に、実態調査で得られた情報をもとに、予防啓発・受検勧奨に繋がるような対策の立案、提言を行う。

質的調査・量的調査の手法を用いて疫学的に地域一般住民の性行動や意識、性感染症に関する知識の現状を明らかにすることで、実態に即した予防啓発・受検勧奨の立案を目指す。

## D.考察

近年は、梅毒の流行が深刻な状況となっており、若い女性における報告数の増加が大きな問題となっている。そして、現代の日本においても、HIV感染と同じ性感染症が、異性間でも急増する環境が明らかとなったことで、今後の受検勧奨法についても再検討することが求められている。

その一方で、女性が従事する性産業の形態は急速に複雑化・多様化しており、一般市民の性サービスに対する意識や行動も大きく変化してきている。従って、潜在的なハイリスク層への感染拡大を防ぐためには、早期に実態を把握するための調査を行い、よりリスクの高い対象者への受検勧奨と予防啓発を行うことが、我が国のHIV感染症を含む性感染症対策における重要な課題となっている。

本研究では、性産業に従事する女性や事業者に加えて、より感染リスクの高いMSM・トランスジェンダーの従業者の調査も行われる。現場で働いている従業者への調査については、プライバシーや人権についての十分な配慮、得られた情報についての慎重な扱いが必要とされる。そのため、性産業従事者に直接関わる分担研究では、従業者をサポートする当事者グループや個人、セクシャルマイノリティーに関わるNPOの代表者、文化人類学者、行政の担当者などを研究協力者とする研究体制を構築した。

さらに、地域一般住民の性行動や意識、性感染症に関する知識の現状を明らかにする調査、性感染症クリニックや自治体・保健所とも連携した性感染症の実態調査も加えるなど、より多角的な視点から効果的な啓発や受検勧奨に繋がる提言を行っていく方針である。

本研究の社会疫学調査によって得られた結果によって、現代における性産業の実態を明らかにし、その多様性や複雑性に合った対策の提言を目指す。さらに、自治体の担当者とも連携した研究計画がすすめられることで、より実効性をもった

事業としても機能するような、HIV を含む性感染症の新たな受検勧奨法の開発に繋がることが期待される。

#### **E.結論**

初年度は、性産業の従事者に対する質的調査を行うために必要な、基礎的な情報収集、インタビュー調査における質問内容の検討、そしてパイロット的な聞き取り調査を開始した。更に、性感染症クリニックでの実態調査、企業健診や成人式におけるアンケートなどの計画を実行するための検討も行っている。今後は、これらの各計画を具体化しながら、順次実施していく予定である。本研究によって、時代と共に変化してきている性産業の実態を明らかにし、その多様性・複雑性に合った新たな啓発・受検勧奨法の立案に繋がっていくことが期待される。

#### **F.健康危険情報**

なし

#### **G.研究発表等**

各分担研究者の報告内に掲載

#### **H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）**

①特許取得

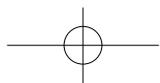
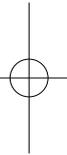
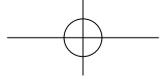
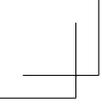
なし

②実用新案登録

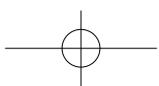
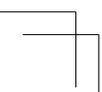
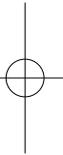
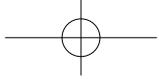
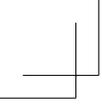
なし

③その他

なし



## II. 分担研究報告



厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】  
H I V検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究  
(分担)研究報告書

## 性産業に従事する事業者と女性従業者の実態調査と受検勧奨

研究分担者	渡會睦子	東京医療保健大学)
研究協力者	あや乃	(日本風俗女子サポート協会代表)
	生島嗣	(ぶれいす東京 代表)
	カエベタ亜矢	(新宿区保健所 保健予防課長)
	堅多 敦子	(東京都福祉保健局 健康安全部 エイズ・新興感染症担当課長)
	土屋菜歩	(東北大学 東北メディカル・メガバンク機構)
	今村 顕史	(東京都立駒込病院)

### 研究要旨

日本における新規 HIV 感染者の中で、女性の占める割合は現在でも決して大きくはない。しかし、近年起こっている梅毒の流行では、20 歳代を中心とした女性の増加が問題となっており、HIV と同じ性感染症の急増するハイリスク層が、今でも女性の中に潜在的に存在していることを改めて示している。

現在、女性が従事する性産業は SNS 等の普及とともに多様化しており、複数の形態の店舗に従事する女性、他職をもちながら性産業と関わる女性、あるいはアルバイトとして性産業に関わる学生や主婦など、従来の受検勧奨の届かない対象者が増加している。したがって、現代の性産業における実態調査を行い、今の時代に合った受検勧奨と予防啓発法を構築することが喫緊の課題となっている。

本研究では、性産業における性感染症対策等の文献検討、研究協力者からの情報収集による現在の事業者と従業者の状況把握(性産業形態の種類・従事者の年齢層・客の年齢層や国籍)等を行った。

### A.研究目的

日本における新規 HIV 感染者の中で、女性の占める割合は現在でも決して大きくはない。しかし、近年起こっている梅毒の流行では、20 歳代を中心とした女性の増加が問題となっており、HIV と同じ性感染症の急増するハイリスク層が、今でも女性の中に潜在的に存在していることを改めて示している。

現在、女性が従事する性産業は SNS 等の普及とともに多様化しており、複数の形態の店舗に従事する女性、他職をもちながら性産業と関わる女性、あるいはアルバイトとして性産業に関わる学生や主婦など、従来の受検勧奨の届かない対象者が増加している。したがって、現代の性産業における実態調査を行い、今の時代に合った受検勧奨と予防啓発法を構築することが喫緊の課題とな

っている。

本研究の研究協力者には、性産業に働く女性をサポートする団体の代表者、現場で啓発活動を行っているセックスワーカー、ぶれいす東京の代表者、そして東京都の性感染症担当と新宿保健所の担当者も参加することが決まっている。

研究の中で、現場の従事者にインタビューを行う際には、対象者へのプライバシーについても十分な配慮をもってすすめる。そして、得られた情報については、社会的な影響も考慮して慎重に扱うこととする。

### B.研究方法

1. 性産業における性感染症対策等の文献検討
- 1) 法律専門家より性産業について情報収集・原稿依頼

性産業・性風俗・CSW (Commercial Sex Worker : 金銭の授受を伴う性行動を職業として行う者)に関する法律をまとめる。

- 2) 性産業における性感染症対策等の文献収集  
国立国会図書館サーチ、医中誌 WEB、J-DreamIII、CINII、PubMed より、性風俗・CSW・人身売買などのキーワードをもとに文献を検索し、収集する。
  - 3) 各都道府県公安委員会への届け出数・風俗マガジン・ウェブサイト等からの性風俗業種・稼働状況等の推測
2. 研究協力者(あや乃)との情報交換による現在の事業者と従業者の状況把握(性産業形態の種類・従事者の年齢層・客の年齢層や国籍)

(倫理面への配慮)

1) 研究等の対象となる個人の尊厳及び人権擁護  
東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理審査委員会の承認を得て実施する。

並びに、文部科学省、厚生労働省が作成している疫学研究に関する倫理指針(平成14年6月17日、平成16年12月28日全部改正、平成17年6月29日一部改正、平成20年12月1日一部改正、平成25年4月1日一部改正)に準拠して調査を計画・実施する。

CSWの研究であることを考慮し、研究等の対象となるCSWに理解を求め、研究等の協力に同意を得、研究等によって起こり得る個人の不利益に対する配慮、個人情報保護に対する配慮を十分に行う。

## C.研究結果

### 1. 性産業における性感染症対策等の文献検討

#### 1) 法律専門家より性産業について情報収集・原稿依頼

現在、南山大学法学部の協力を得、性産業・性風俗・CSW (Commercial Sex Worker : 金銭の授受を伴う性行動を職業として行う者)に関する法律について、日本の歴史的背景を踏まえ

まとめていただいている。

現在、これらを元に、法律上許可されている行為と性感染症が感染する行為とを比較し、現代の性産業に関する法律で許される行為と性感染症予防があっているのかを検討している。

#### 2) 性産業における性感染症対策等の文献収集

国立国会図書館サーチ、医中誌 WEB、J-DreamIII、CINII、PubMed より、性風俗・CSW・人身売買などのキーワードをもとに文献を検索し、収集した。現在、文献数6本、書籍57冊ある。現在この内容から、実態のまとめを行っている。

#### 3) 各都道府県公安委員会への届け出数・風俗マガジン・ウェブサイト等からの性風俗業種・稼働状況等の推測

風営法関連の営業所数・届出数の推移(平成22~28年)より情報を入手し、風俗営業の営業所数・性風俗関連特殊営業の届出数の推移を入手し、真のデータについて分析を進めている。

#### 3. 研究協力者より情報収集し現在の事業者と従業者の状況把握を行った。

- 1) 年齢層は現在幅広く、10-20代に限らず多い。
- 2) 就業所在地によって、脱サラ後の経営者が増加している。
- 3) CSWの仕事をしようと思った動機は貯金、借金、生活費、学費、将来の夢、興味があった、経験してみたかった等がある。
- 4) CSWの仕事の情報は、知り合いの紹介(友人・彼氏・夫・親・借金業者等)、求人誌(一般求人誌・風俗求人誌)、ネット求人(一般求人・風俗求人)、スカウトなどがある。
- 5) CSWの他に職業を持っているものは主婦、派遣、常勤雇用等が多い。

- 6) 仕事の種類は、ピンクサロン、ソープランド、イメージクラブ、性感ヘルス性感マッサージ、ファッションヘルスヌードダンサー、ストリッパー、SMクラブ、アダルトビデオ、セクシーパブ等がある。
- 7) 性的な実施サービスには、手コキ、キス、顔射、フェラチオ(ゴムつき・生)口内発射(ゴクンあり・ゴクンなし)玉なめ、アナルなめ、クニニリングス、69、肛門性交(ゴムつき・生)素股、指入れ等がある。
- 8) 外国人国籍の客層は、増えている実感が無い
- 9) HIV・梅毒などの性感染症について、学ぶ機会は、ほとんどなく、独学での感染予防となっている。
- 10) 法律以外の行為を強制されることには恐怖を感じており、今後、客にも理解される方策を望んでいる。これらのことが分かった。

#### D. 考察

これまで、これらの調査を進めることによってCSWのこれまでに行っている行為が制約されることで、客が減少するなど懸念し協力が得られないのではないかと危惧されていたが、CSWにおいても法的に禁止されている行為により、CSWの人権を侵害されることを脅威に感じていることがインタビューからも得られた。今後、本研究の結果から得られた内容をパイロット試験とし、全国のCSWを対象にアンケート調査を展開していく。

法学的見解において、性産業を肯定した上でノーマライズし、人身取引の温床となることを危惧する意見もあった。世界の中でも日本が人身取引の温床となっていることも指摘されているので、CSWの人権保護を重要視しながら、研究を進めていきたい。

#### E. 結論

本研究では、文献検討と研究協力者より情報収集し現在の事業者と従業員の状況の把握を行った。今後、これらをもとにCSWの実態を把握するとともに、CSWの性感染症予防実態を行い、予防教育の実践まで展開を拡大する。

しかしながら、法的根拠をなしに展開することは人身取引の問題を許容することにつながる恐れもある。それらも考慮しながら、法律上許されている行為と性感染症が感染する行為とを比較し、現代の性産業に関する法律で許される行為と性感染症予防があっているのかを検討していくことも重要である。

#### 【参考文献】

1. 風俗問題研究会『風営適正化法ハンドブック〔第4版〕』, 立花書房、2016年
2. 大塚尚『風俗営業法判例集〔改訂版〕』, 立花書房、2016年
3. 風営適正化法研究会編集『〔7訂版〕風営適正化法関係法令』, 東京法令出版、2016年、
4. 森山真弓・野田聖子『よくわかる改正児童買春・児童ポルノ禁止法』, ぎょうせい、2005年
5. 高森高德『新 刑法犯・特別法犯 犯罪事実記載要領〔改訂第5版〕』, 立花書房、2018年
6. 大阪弁護士会人権擁護委員会性暴力被害検討プロジェクトチーム編『性暴力と刑事司法』, 信山社、2014年
7. 川端博『風俗犯論 , 刑事法研究』, 成文堂、2010年
8. 刑法読書会『犯罪と刑罰』第26号, 特集 性犯罪規定の改正
9. 藤目ゆき『性の歴史学—公娼制度・堕胎罪体制から売春防止法・優生保護法体制へ』, 不二出版、1997年
10. 青山薫『「セックスワーカー」とは誰か—移住・性労働・人身取引の構造と経験』

11. 東大社研・玄田有史・宇野重紀編『希望学 4 希望のはじまり』, 東京大学出版会、2009年
12. 辻村みよ子編『かけがえのない個から, ジェンダー社会科学の可能性 第1巻』, 岩波書店、2011年
13. 青山薫の論文「セックスワーカーの人権・自由・安全」所収
14. ロナルド ワイツァー, 岸田美貴訳・松沢呉一監修『セックス・フォー・セールー売春・ポルノ・法規制・支援団体のフィールドワーク』, ポット出版、2004年

#### G.研究発表等

なし

#### 2.学会発表

なし

#### H.知的所有権の出願・登録状況(予定を含む)

##### ①特許取得

なし

##### ②実用新案登録

なし

##### ③その他

なし

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】  
H I V検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究  
(分担)研究報告書

性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨

研究分担者： 今村 顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院)  
研究協力者： 砂川 秀樹 (明治学院大学国際平和研究所)  
生島 嗣 (特定非営利活動法人ふれいす東京)  
荒木 順子 (特定非営利活動法人 akta)  
カエベタ 亜矢 (新宿区保健所 保健予防課)  
堅多 敦子 (東京都福祉保健局健康安全部エイズ・新興感染症担当課)

研究要旨

本研究は、これまで十分に調査されることのなかった、男性同性間で金銭の授受も伴い性行為を行う層、トランス女性で金銭の授受も伴い性行為を行なう層を対象として、その健康リスクをいかに下げているかという視点を基に、HIV/STI のリスクとそれに伴う受験行動などについて、本年度を含めて 3 年間かけて調査研究するものである。これは、具体的には、彼ら彼女らがどのように HIV や STI の感染リスクを経験しているのか、そのリスクを下げることの妨げとなっている要因があるとするなら、それはどのようなものか、またリスクを経験した時に、HIV/STI 検査やそれも含めた医療ケアの診察へのアクセスの状況はどうなっているのか、そのアクセスのハードルとなっているものは何かを調査するものである。そして、それらの研究を経て、彼ら彼女らの健康リスクを下げていくための情報提供のあり方などを提言していく。

初年度である本年度は、それらの調査や提言を進めていくための予備調査として、MSM セックスワーカー (MSM-SW) を対象に、1. 先行研究レビュー；それらの層について明らかにされてきたことの確認、2. 形態の把握と分類；どのような形態によって金銭の授受を伴う性行為が行われているかの分析を行なった。2 に関しては、インターネット上で MSM-SW の店の調査と、4 人に対する予備的なインタビュー調査に基づいて提示しており、今後さらに精緻化していく。尚、トランス女性に関しては手法等に関して時間をかけた、より慎重な検討が必要であることから、次年度に、トランス女性のセックスワーカーの問題に取り組んできた人たちの意見を聴取し進める予定である。

先行研究レビューからもインターネット上、及びインタビュー調査からも、MSM-SW の形態の多様性は明らかである。MSM-SW のセックスワークの形態について、経営の型、移動の型、性行為内容の三つの軸によって分類を試みた。経営の型でいうならば、「職業的ではない、流動・暫時的に個人交渉型」で SW をおこなっている人が、もっとも健康リスクに晒されている可能性が推察された。また、様々な MSM-SW に対する実情の把握や健康リスク低減のためのアプローチは、それぞれに異なった形が必要であり、今後の十分に検討していかねばならない。尚、今回の調査ではアダルトビデオ業界と SW 業界との連続性も判っている。これは、単にそれらの業界の連続性を見るということだけでなく、MSM-SW のネットワークの形成の指摘でもあり、今後の調査や健康リスク低減のアプローチのあり方を検討する上で重要である。

MSM-SW やトランス女性-SW へのアプローチには、その問題に取り組んできた当事者・支援者団体・或いは個人との連携が不可避であり、今後、その連携も進めていく予定である。

## A. 研究目的

男性とセックスをする男性（MSM; Men who have Sex with Men）が、HIV や STI のリスクに最も晒されている層に属していることは、世界的に見ても疑う余地が無い。日本でも、男性同性間の性行為による感染は、2008 年をピークに横ばいが続いているものの、2016 年の年間報告で、感染者報告数の 72.7% を占め、患者数ではその割合は少し落ちるものの、やはり 55.1% を占める。

また、トランスジェンダー女性（出生時に男性と振り分けられたが、性自認が女性であるなどして女性として生活する人、以下「トランス女性」）も同様に、あるいは MSM 以上に、HIV/STI リスクを負っていることは、海外の研究や HIV/AIDS に関する現場から指摘されてきた。

しかし、一方のトランス女性は、人口全体に占める割合が少ないがゆえに顕在化しづらい。更に、性別変更しない場合は男性として、変更した場合は女性として統計処理され、トランス女性としては把握されないことから、トランス女性の HIV 感染の状況は明白ではない。

そして、これまで、アクセスの難しさなどから、トランス女性向けの啓発や調査がほとんど行なわれてこなかった背景もあり、性行為に関してどのような状態におかれ、どのような環境や力関係などのもとでリスクに晒されているかの検討は十分に行なわれていない。

MSM に関しては、日本においても、厚生労働省科学研究費補助金によるエイズ対策研究事業などの中で、ゲイ/バイセクシュアル男性のコミュニティを中心とした調査や啓発活動が行なわれてきたことにより、実態把握と啓発のための仕組みづくりは継続されてきた。

しかし、その中のサブグループと位置づけられる、「男性同性間の性産業に従事する人たちなど、金銭の授受も伴う性行為を行なう層」に関しては、調査としても啓発としても、特別に対象化されアプローチされることはなかった。だが海外での研究では、下記の文献レビューの結果で触れるよう

に、その層における HIV や STI の感染率が高いという研究報告も出されており、日本でも同様に、健康被害のリスクに曝されている可能性は高い。

なお、日本のトランス女性のセックスワーカーに関する調査としては、セックスワーカーの当事者と支援者からなるアドボカシー団体などの協力により行なわれた東優子らによるものがある。その研究においては、HIV 感染リスクなどのリスク要因は明確に検証されてはいないものの、トランスジェンダーの人たちの生き辛さを指摘しながら、リスク要因に引き続き注視していく必要性が指摘されている。1)

よって、本研究は 3 年間の研究の中で、これまで十分に調査されることのなかった、男性同性間で金銭の授受を伴う性行為も起こす層、トランス女性で金銭の授受を伴う性行為も行なう層を対象として、その健康リスクをいかに下げたいかという視点を基に、HIV/STI のリスクとそれに伴う受験行動などについて調査研究するものである。それは、具体的には、彼ら彼女らがどのように HIV や STI の感染リスクを経験しているのか、そのリスクを下げることの妨げとなっている要因があるとするなら、それはどのようなものか、またリスクを経験した時に、HIV/STI 検査やそれも含めた医療ケアの診察へのアクセスの状況はどうなっているのか、そのアクセスのハードルとなっているものは何かを調査するものである。そして、それらの研究を経て、彼ら彼女らの健康リスクを下げていくための情報提供のあり方などを提言していく予定である。

次年度以降、質的調査（インタビュー調査）と量的調査（質問紙調査）を実施していく予定だが、まず、この初年度は、それらの調査や提言を進めていくための予備調査として、1. 先行研究レビュー：それらの層について明らかにされてきたことの確認、2. 形態の把握と分類：どのような形態によって金銭の授受を伴う性行為が行なわれているかの分析、を行った。なお、これまで HIV/AIDS の啓発や調査が行われてきた MSM 層に対して、ト

ランス女性に関しては手法等に関して時間をかけた、より慎重な検討が必要であることから、次年度に、トランス女性のセックスワーカーの問題に取り組んできた人たちの意見を聴取し進めていく。

ここで、対象層に関する用語について説明をおこなっておきたい。本研究班の表題では、対象層を「性産業の事業者および従事者」と表現しているが、後に記すように、先行研究レビューや現状把握のための予備調査を進める中で、現在、金銭の授受を伴う性行為は、「性<産業>」という名称では包括できなくなっている面がある。

恐らく、もともと多様であったものが、インターネットの利用が増える中で、いっそう個人的、暫時的なやりとりの中でおこなわれる形へと移行している。

そのような個人的、暫時的な形での金銭の授受を伴う性行為を含めて、近年、英語では transactional sex（取引的＝金銭のやりとりのあるセックス）と表現することが多くなっている。また、そのような人たちは、セックスワーカー（あるいは、日本でいうところの「売り専」など、それを意味するゲイ／バイセクシュアルコミュニティでの呼称）としての自己意識を保持していないことが傾向を持つことも指摘されている。更に、このように様々な形態が存在する中で、どの領域を切り取るかも難しい課題である。しかし、それらの複雑さの理解と把握こそ、今後、この対象層に対する調査や啓発をおこなっていく際に極めて重要なポイントとなるものと思われる。

そのために、今後、どのような呼称でどのような層を包括するのも検討していく必要がある。しかし今回、論を進めるにあたって、これまでの研究にならい、様々な形で「男性同性間で金銭の授受を伴い性行為もおこなう行為」を基本的に SW（sex work の略語として）と記述し、その経験のある層を「MSM-SW」と記す。だが、それらは「sex work」という表現には合致しづらい形態のものや、アイデンティティも多様な人たちを包括する、便

宜的な仮の名称であることを強調しておきたい。尚、特に職業的にセックスワークに従事している人を特定して指す場合にはカタカナで「セックスワーカー」と記述する。

## B. 研究方法

### 1. 先行研究レビュー

英語の医療系論文のデータベースにおいて、「MSM HIV」あるいは「Transgender HIV」と、「sex work」か「transactional sex」という語をかけた合わせた検索により論文を抽出し、過去5年間のものから参考になるテーマのものを選択した。

### 2. 形態の把握と分類

#### (1) インターネット上の調査

ゲイ向けインターネット情報サイト「G」（仮名）に「売り専・出張」「マッサージ」のカテゴリーで登録されている都内の店を地域ごとに検索し、それらすべての店のサイトをチェックした。その際、現在サイトが運営されていない店舗は閉鎖しているものとしてリストから除いた。

なお、現在はTwitterで宣伝する個人も多いが、Twitterを主たる宣伝媒体とする個人を把握し、いかに分析の対象とするかは来年度の課題としたい。

#### (2) インタビュー調査（予備調査）

本研究の初年度の調査においては、MSM-SWだけでなく、利用経験者なども含め、様々な立場の人にインタビューを行なう予定であったが、初年度の研究承認時期の問題もあり十分な調査を行うことはできなかった。しかし、フォーマルインタビューを1名（30代後半：アダルトビデオ出演者）、インフォーマルなインタビューを3名（50代前半：マッサージ利用客／30代前半：SW経験者／40代後半：SW利用客）に実施できたことから、それらを（1）の情報を基にした、MSMのSWの種別

の分類分析の補完情報とすると共に、今後のより本格的なインタビュー調査及びアンケート調査の予備調査として位置づける。

尚、フォーマルインタビューは半構造化面接でおこない IC レコーダーに録音したが、インフォーマルなインタビューは研究への協力への同意を得たものの、録音はせず断片的な情報提供を得た程度である。今後、その人たちに改めてフォーマルインタビューをおこなう予定である。

## C. 研究結果

### 1. 先行研究レビュー

世界的に、特に先進国を中心として、MSM が HIV 感染リスクに最も曝されていることは、AIDS が最初に報告された時から現在にいたるまで、感染者数の報告状況からも明らかである。一方、トランス女性は、感染報告の統計としては把握されることが難しい。だが、トランス女性を対象とした HIV/STI に関連する調査では、どの国や地域における調査も、大きなリスクに晒されていることが明らかになっている。2)-5) しかも、MSM との比較では MSM よりもより感染リスクが高い報告もある。6), 7) そして、そのリスクの背景として、暴力を受けやすいこと、社会的な差別偏見に晒されていること、またパートナーの異性愛男性が主導権を握る傾向にあることが挙げられており、トランス女性の HIV/STI 感染リスクと社会的な位置づけ、パートナーとのジェンダー的な力関係が無視できないことが明らかにされている。

MSM-SW に関しては、SW をしたことのない MSM との HIV 陽性率を比較した調査においては、MSM-SW の陽性率が高いとする報告 8), 9) と、変わらないとする報告 10) とがある。

その結果を受け、Catherine E. Oldenburg ら 11) は、MSM-SW とそうではない MSM の HIV 陽性率を比較した 33 の調査のメタ分析を行なった。その結果、総合してみると、MSM-SW の HIV の陽性率は、他の MSM より高まると結論を出している。

(尚、Oldenburg らは、transactional sex という言葉を用い MSM-TS と表現している)。

しかし、このメタ分析で対象となった調査が行なわれた地域は、東南アジア (ラオス、インドネシア、タイ、ベトナム)、東アジア (中国)、ラテンアメリカ (アルゼンチン、エクアドル、エルサルバドル、ペルー)、サハラ以南アフリカ (ケニア、セネガル、南アフリカ、ウガンダ)、北アメリカ (アメリカ合衆国)、中東 (イスラエル) の、7つの地域 17 カ国にわたっているが、地域別に分析すると、ラテンアメリカとサハラ以南アフリカだけが、統計的に優位に陽性率が高いという結果となっている。

この地域による違いについて、Oldenburg らは、それぞれの地域や国全体における HIV の感染拡大の程度や層との関連が指摘しながらも、SW (論文中は TS) の定義の違いと、それにより調査に含まれる対象者の多様さに影響を挙げている。

タイの調査では、これまでに SW をしたことがある、あるいは過去 12 ヶ月において SW をしたことがある MSM においては、HIV 感染率は有意に高くなっていたが、「(職業的な) セックスワーカー」の間では感染率が下がる傾向にあった。

また、中国の調査でも似たような結果が出ており、「セックスワーカー」では統計的優位に HIV 感染率が下がっていた。更に、過去 12 ヶ月の SW の経験と定義した場合、SW と HIV 感染率に関係は見られなかった。

他の中国の調査では、「セックスワーカー」のほうが SW の経験のない人よりコンドームの使用率が高いという結果も出ており、HIV 感染リスクの認識に違いがあるのではないかと、Oldenburg らは指摘している。

しかし、この論文の中でも指摘されているが、このメタ分析はその性質上、HIV 感染が SW の開始された後に起こったのか、開始される前にあったのか、という点は明らかにできない (感染後に貧困状態に陥り SW を始めた可能性も考えられる)。また、MSM-SW として括られても、ストリートで客

を見つけるのか、インターネットを通じて見つけるのかといった違いによる、HIV 感染に対するヴァルネラビリティの違いも示すことができないという限界がある。

これらの指摘からも、MSM-SW 中の多様性は、この層の健康リスクについて考える上で重要な視点となっている。

米国でのある研究では、MSM-SW が客と出会うために用いる二つの異なるインターネットサイトの比較調査も行われ、その差異も指摘されている。12) その調査によると、一方のサイトが他方のサイトよりも、フルタイムで SW をおこなっている率が低く、最後の客とのアナルインターコースの率が低く、過去 30 日間での客の数も少なかった結果が出ており、このサイトの利用者は、経済的には他方のサイトの利用者よりも不利であるにも拘わらず、アナルインターコースやコンドームなしのアナルインターコースをおこなう率が低かったという。

そしてまた、インターネットの普及以降、MSM-SW のあり方の変化も指摘されており、MSM-SW にアプローチする上で十分に考慮しなければならない。

オーストラリアの研究では、MSM-SW が客と出会う場がインターネットへ移行した結果、SW に関するリスクのマネージメントが社会的なコントロールから、クライアントと MSM-SW のオンライン・コミュニティ (communities) 内でインフォーマルにおこなわれるやりとり (practices) へと移行していることが指摘されている。13) また、インターネットを通して MSM-SW が多様な地域で顕在化し、異性愛者の男性や女性が新しいクライアントとなりつつあるという。14)

そして、オランダの調査では、女性とのセックスだけでなく、他の MSM-SW とのセックスがあることも指摘されており 15)、さらに、中国の調査では、セックスワーカーとして従事する人は、そうでない人よりクライアントとしての経験を持っていることが多い、という結果も出ている。16)

MSM-SW としての多様性だけではなく、SW の現場に限らず相手との関係性の多様性も視野に入れる必要があるだろう。

また、これまで、MSM-SW において必ずしも SW がリスクの原因ではないこと 17)、顧客とより親密なパートナーとの関係でのほうがコンドームの使用率が下がること 18)、などの報告も出されている。よって、MSM-SW を対象層としても、その健康リスクを考えるときには、SW だけで捉えない視点が重要である。さらには、SW を行なっているからと言って、かならずしもセックスワーカーとしてのアイデンティティがある訳でもなく 19)、調査や啓発を行なっていくときの対象設定や呼びかけ方などには十分な注意が必要である。

そして、MSM-SW の健康リスクの低減ということ意識するならば、様々な関係における予防行動だけでなく、HIV/STI の感染の可能性があった時に、如何に検査を含めた医療サービスにアクセスできるかということが重要な課題となる。

米国の調査では、MSM-SW は、HIV 検査の率は高かったものの、他の STI の検査は低く、加入保険でカバーできる範囲が小さく、プライマリーケア、薬物に関する治療、メンタルヘルスのサービスなどのヘルスケアのニーズにうまく合致していなかったという研究結果が出ている。20) また、同じ MSM でも、セックスワーカーとそうではない人とは、セックスワーカーのほうが、MSM であるということよりも、様々な問題 (ホームレス状態にあることや、薬物の問題、貧困など) を理由とした医療に対する不信感を持ち、差別的な対応を受けたことを報告している。更に、セックスワーカーではない MSM のほうが、自分の性行動についてより話す傾向にあり、これらの違いが PrEP を含めた医療サービスへのアクセスの違いを生む可能性をはらんでいることが指摘されている。21)

これらの先行研究は、MSM-SW が、安心して受診できる医療現場づくり、そしてそれらのリソースの情報提供の必要性を示していると言えるだろ

う。さらに、MSM 全体でも課題となっている問題でもあるが、MSM-SW におけるアルコールや薬物の問題 (22)-24)、親密なパートナーからの暴力の問題 (25)-26) など指摘されており、単に医療的な検査を受けるだけでなく、MSM-SW が自分の抱える問題を語れる相談先も求められている。

## 2. 形態の把握と分類

### (1) インターネット上の調査

#### ・店と地域

ゲイ／バイセクシュアル男性向けインターネット情報サイト「G」(仮名) に登録されている、東京都内の地域別性産業の数は下記の通りである。「売り専・出張」および「マッサージ」というカテゴリ分けは、同ページによるものである。

	売り専・出張	マッサージ	総数
新宿二丁目	28 (21)	24 (18)	52 (39)
上野	3 (1)	17 (17)	20 (18)
浅草	0	8 (6)	8 (6)
渋谷	4 (3)	5 (5)	9 (8)
新橋	1 (1)	3 (3)	4 (4)
総数	36 (26)	57 (49)	93 (75)

表 1 : ( ) は「店舗有型」の数

なお同ページでの地域名は必ずしも、その店の存在地ではない。ここで挙げられている地名は、東京においてゲイバーなどが多く集まっている代表的な町の名称であり、厳密な住所としてはどの地域名にも属さない場合は、それぞれ近い地域に含まれている。

なお、新宿エリアは、同ページでは「新宿二丁目」と記されているが、歌舞伎町に存在する店舗も少ないながらもその地域に分類されていた。しかし、歌舞伎町と新宿二丁目は、MSM (特にゲイ／バイセクシュアル男性) にとっては、持つ意味

が全く異なる地域であり、経営の背景や主たる客層が異なる可能性もある。よって、ここでは「新宿」とした。

また、それぞれの地域は、MSM においては、集まる人たちの年代など、特定のイメージがあり、これらの店舗も地域ごとに店で働いている人たちのイメージと関連を持っていることが、それぞれの店のサイトからも窺える。特に、上野・浅草はサービス提供者が「中高年」であるという特徴を持っており、また客層も同じ傾向を持つことも考えられる。

#### ・種別名と呼称

「売り専・出張」「マッサージ」は、同情報サイトによる分類名であり、それぞれの店が登録する際に選択する形式となっている。しかし、実際に一つ一つの店の案内文やサイトを調べてみると、それらの区分は明確にはなっていない。

「売り専」という言葉は、もともとは、MSM の間では、狭義では、以下のものを指す傾向にある。(1) 店内にスタッフが待機し、そこに客が来て指名し共に外出するか (その場合、必ずしも性行為が伴うとは限らない)、あるいは、独自に持っている個室を利用し性行為をおこなう店 (2) それらの店で働く人。しかし、広い意味では、個人レベルでのやりとりも含めて、金銭の授受を伴って性行為をすること、またそれをおこなう人を指すこともある。

「売り専」という言葉は、MSM の間では金銭の授受を伴うセックスをめぐって最も頻繁に用いられる語であり、スティグマも含めて様々な象徴性も持つ。そのため、その語の持つ意味についての分析も必要であるが、店、人、行為すべてを指すなど、意味が流動であることから、今回の研究テーマの、店の性質の把握や分類には適しない。よって、ここでは違う観点から分類分析を加えていく。ただし、インタビューなどの語りに出てきた場合には、その語を用い、それが具体的に何を指しているかを明示する。

また、マッサージという分類も、性的なサービスを伴わない店から、インターコースまで想定されている店まで含まれており、別の観点からの分類分析が必要である。これらの分類分析は、それぞれの店のサイトの情報だけではなく、次のインタビューの内容も含めて考察においておこなう。

## (2) インタビュー調査（予備調査）

### ・Aさん

フォーマルインタビューのインタビューーAさんは、30代後半のゲイであり、企業で働く傍ら、アダルトビデオ（AV）に出演しており、インタビューの段階で、性的なサービスも提供する「マッサージ」のスタッフの募集へ応募していた。

もともと本研究では、AV業界は、調査対象として視野に入れていなかったが、Aさんによると、「売り専」とAV業界は密接な関係にあり、「売り専」で働く人がリクルートされてAVに出ることは非常に多く、また、その逆にAVに出たのちに、「売り専」で働き始める人もいることから、それらは切り離せないという（ここで言われている「売り専」とは、職業的にSWをしている人を指している）。実際に、サイト上の広告でも、AVに出ているスタッフがいることを強調している店も見られた。

Aさんによると、彼が出演しているAV会社はコンドーム使用に関しては、徹底して指導しているという。また彼自身は、PrEP（暴露前投与）を個人輸入によりおこなっている。そして、彼自身は、出演に際しHIVに関するステータスの確認等がないことに疑問感じており、業界全体として考えるべきことではないかと考えている。それは、挿入行為においてコンドームを使用し、挿入相手が変わるときにコンドームを変えるよう徹底しても、大人数による撮影の際には、手についた精液がコンドーム上などに付着するなどのことを懸念していることである。

また、彼は、知り合いの「売り専」で働く人が「ハッテン場」（MSMの人が集まり性行為をおこな

う場所）でコンドームなしのセックスをしていることにも触れている。先行研究の中でも指摘されていることだが、当然のことながら、MSM-SWの健康リスクを考える際に、SWの場だけに限定される問題ではない。

さらに、MSMのAV業界では、違う会社の作品に出ることは珍しくなく、会社によってはコンドームなしのセックスを強調することで差別化をはかり業績をあげる傾向もあり、「売り専」との重なりに関わらずAV出演者の健康リスクの問題も同時に視野に入れていく必要があるだろう。

そして、彼が応募していた「マッサージ」だが、その店は元々AVに出演していた人が経営しており、性的なサービスも提供しているという。ただし手袋も着用しての性的サービス提供する形で、HIV/STI 予防を徹底している。

### ・Bさん

このように、「マッサージ」としての営業名で、性的サービスをおこなう店は多いことが、インフォーマルなインタビューに応じてくれたBさん（50代前半）からも聞かれた。彼は、客として「20-30 軒ほどのゲイがやっているマッサージ店」の利用経験があるが、「自分が行ったことのある、ゲイがやっている『マッサージ』はたいがい『抜きあり』だった」と語っている。ちなみに、ここで言う「抜きあり」とは、客に射精をさせることを意味しており、性的なサービスが伴うことだ。ただし、彼は、「もちろんマッサージだけの店もあった」こと、自分は店のサイトを見て、「抜きありだろう」と思ったところを選んでアクセスした結果であることを強調している。また、「抜きあり」とは言っても、基本的に「マッサージ」は手によって射精させることがほとんどで、彼はこれまでの経験ではHIV/STIの感染リスクが高い行為が行なわれたことはないと言う。

### ・Cさん

MSM-SWとして20代前半の頃に3年ほど出張専

門のSWの仕事をしてきた経験のあるBさん（30代前半）も、仕事の中でコンドームなしのアナルインターコースはなかったという。

Bさんが勤めていた先では、管理者とは面接時に会うだけで、その後はメールのやりとりで仕事をおこなっていた。シフト表に応じて客が決まると、日時と場所を管理者からメールで受け取り、仕事の始まりと終わりにメールで報告し、管理者に支払うべき分を振り込む。

そこでは、最初の面接時に「必ずセーフですること、それに応じない客がいたら連絡すること」が通達されており、客側もそれを承知で申し込んでくることから、コンドームなしのアナルセックスに至ることはまずないという。3年間のうちで、それを求める客が2-3人いたが、それは断ったとBさんは語った。

そのときに断りづらくなかったかと尋ねたところ、「仕事だから！プライベートでは全然だけど」と答えた。プライベートでのセックスでは、相手任せだったという。彼にとっては、「仕事」という形が予防行動を支えたということになる。

#### ・Dさん

一方、Dさん（40代後半）が語った、お金を支払っておこなったセックスの経験は、金銭の授受を伴うセックスの中でも、A～Cさんとは、違う現場を浮き彫りにしている。

Dさんは、4回、セックスに関連してお金を払ったことがあるが、職業的な意味でのセックスワークを利用したことがあるのは一回だけである。それは「マッサージ」だが、それに関しては、先のBさんと同様、やはり手による射精があっただけで、特にHIV/STIのリスクがある行為はなかった。

しかし、他の金銭を伴うセックスはそうではなかった。もともと、Dさんは、「barebacker」（アナルインターコースでもコンドームを基本的に使用しない人を指す言葉）を自称しており、インターネットでの書き込において、自分が被挿入側

として、barebackの相手を募集することが多いという。そして、そのようなやりとりの中で、セックスに金銭の授受が関係することが3回あり、それぞれ以下のような成り行きだったという。

- ・相手（20代）の家へ行き、コンドームなしの挿入と射精があったあとに、「いくらでもいいので、お金を貰えないか」と頼まれて2千円払った。

- ・自身が宿泊しているホテルの部屋に来た相手（40代）から、行為の前に「2千円貸して欲しい」と言われて、2千円お金を出したが、何もせずに帰ってもらった。

- ・自分の家に来てもらって、やはりコンドームなしの挿入と射精があったあとに、相手（30代）に「千円でいいのでお金を出して欲しい」と言われ千円を払った。

そして、掲示板にbarebackの相手の募集を出す、必ず、3-4人から、「サポでなら」という条件で連絡が来るといふ。また、毎回メールを送ってくる人も複数おり、その人たちは、掲示板にも毎日投稿しているとDさんは語る。「サポ」というのは、「サポート」の略でお金を提供することを意味する。ただし、彼は、「以前、コンドーム使用を条件に相手募集をおこなったときにもメール来たけれど」と語っており、同じ掲示板でのやりとりでの「取引的セックス」でも、当然ながら、HIV/STI感染予防行動をとった上で行なっている人たちもいる。

しかし、たった1人のわずか3回のケースだが、これらの、「セックスワーク」とは位置づけるには難しい、しかし金銭の授受を伴ったセックスの背景には、一部のMSMが経験している貧困がある可能性が見え隠れしている。そして、先行研究レビューで触れた、職業的なセックスワーカーより、そうではないSW経験者にHIV感染リスクが高いという研究結果とも合致している。

#### D. 考察

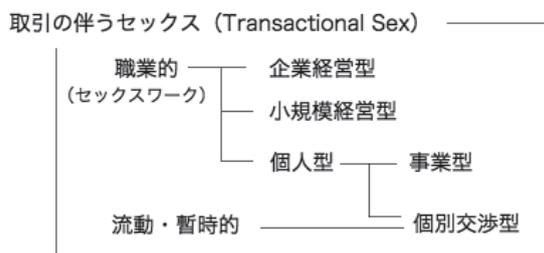
ゲイ／バイセクシュアル男性向けインターネット情報サイト「G」に基づく二つの分類「売り

専・出張」「マッサージ」が、実態把握の際には十分に機能しないことは、C. 結果において触れた通りである。

では、MSM-SW の HIV/AIDS の感染リスクに関する状況の把握や、健康リスクの低減を進めるためには、どのような軸での分類やそれによる性質の把握が考えられるか、上記の研究結果を総合的に参考にした上で考察したい。

そのためには、更なるフォーマルインタビュー調査を進めることが必須であるが、今回は、それぞれの店のサイトに掲載されている情報と、フォーマルインタビューとインタビューの内容を合わせて、三つの視点による分類を仮のものとして提示したい。その分類軸は、今後のインタビュー調査に基づいて検証、精緻化していく。

まず、SW の環境や性質を左右する大きな要因として経営の型による分類を挙げる。



ここでいう企業経営型というのは、幾つもの支店を持って経営している形態を指す。なかには、支店という形をとらずに、全く異なったコンセプトやイメージを提示して複数の店を経営している企業もある。それらの店では、数十人のスタッフを抱えている。一方、小規模経営型は、4-5人のスタッフを抱えて業務をおこなっている店舗のことを指す。個人型の事業型とは、一人でおこなっているものの店舗を構え、出張のみでおこなっているもの、サイトを立ち上げて安定的に事業を続けている所を指す。個人交渉型は、インターネットの掲示板などを通じて客を求め、掲示板にセックスの相手を募集している人に対してメールを送ることで営業している人のことである。

経営の型で分ける意味は、企業経営や小規模経

緯の場合、経営者の方針が従業員の仕事における性行動を方向付けるからである。また、客に対してもあらかじめ条件を提示することで、HIV/STI のリスクをコントロールすることが可能となる。

一方、個人型は、基本的には、自分自身で性行動の内容を決定できる。しかし、あらかじめインターネットサイトなどで、提供するサービスの内容を明示 (あるいは暗示) できる事業型と異なり、掲示板でのやりとりなどを通じて客を見つける個別交渉型は、客との力関係がどのように左右するかによって、行為の内容が大きく異なるであろう。

そして、D さんのインタビュー内容から、個別交渉型にも、職業的におこなっている人と、貧困ゆえに流動・暫時的におこなっている人がいることが浮かび上がっている。「貧困ゆえに流動・暫時的におこなっている」と考えるのは、D さんが出会った 3 人がいずれも、かなりの少額を、「できれば」或いは「貸して」という表現で求めていることだ。彼らは、困窮している状態を凌ぐために、リスク・テイキングをおこない、それにより金銭の授受を求めていることが推察される。

なお、今回、ストリートで客を求める MSM についてはインタビューできなかったが、その背景を考えると、彼らも流動・暫時的なタイプとして健康リスクに晒されている可能性がある。

2017 年におこなわれた、日本でゲイ向けの出会い系アプリを用いた調査 (N=6921) (27) では、「これまでにセックスをすることで金銭を受け取ったことがありますか?」という質問に対して、「過去 6 ヶ月間にあった」と回答している人が 4.1%、「6 ヶ月以上前にあった」と回答している人が 18.6%、合わせて 22.7% の人が経験ありと答えている。これだけの多くの人たちが、職業型セックスワーカーとして働いた経験を持つことは、考えることは難しいことから、流動・暫時的な形での MSM-SW 層の多さを示唆する結果と言えるだろう。

他の型の SW では、今回聞き取った範囲においては、リスクの高い行為の話はでなかったが、イ

ンタビューとインタビューの対象者が限られていたため、判断を下すことはできない。また、インターネット上での調査では、個人営業型でコンドームなしのインターコースを選択できるサービスを提供しているところもある。

ただし、「仕事である」という意識が、HIV/STIの予防行動を遂行することに結びついていることは、今後、MSM-SWの健康リスクを低減していくための方法を考えていく上で示唆的である。

また、職業的な型は、MSM-SWが仕事をする際の動き型をもとに、さらに次のように分類できる。

職業型				
店舗型		派遣型		無店舗 個人行動
自前個室	外出	事務所経由	直行直帰	

店舗型の自前個室は、客が店舗に来訪し、その店の個室でサービスを提供する形式であり、「マッサージ」という名前を掲げている所には、そのような形式をとっていることが多い。

外出とは、バーの形式の店舗があり、そこにいる「ボーイ」を指名して連れ出すものであり、ゲイ/バイセクシュアルコミュニティで「売り専」というと狭義にはそのようなスタイルの店を指す傾向にある。外出が基本ながら、自前個室利用も可能という複合型もある。

派遣型は、インターネットを通じて客が指名する形だが、いったん事務所を経由して客のもとへ赴くタイプと、全く事務所などに寄らずに客のもとへ直行し、終了後も直帰するタイプがある。

これらの型の分類は、MSM-SW 個々人に、HIV/STI などの情報をどのように流通させるかを検討する場合に有効と思われる。

そして当然ながら、行われる性行為によっても、大きく次のように分けられる。

ヌキ有り		ヌキ無し
インターコース有	インターコース無	マッサージのみ

「ヌキ無し」はSWに含まれないと考えるのが通

常ではあるが、隣接領域であり、絶対に「ヌキ無し」から、場合によってはあるというところもあり、視野に入れておく必要があるだろう。

また、この分類の中では明示できなかったが、インフォーマルインタビューからは、AV業界が他のSWの領域との行き来があることが明らかになっている。今後、AV業界もSWの一つとして位置づけて考えていく必要がある。

## E. 結論

先行研究においても指摘されてきたのと同様、日本においても、MSM-SWの形態の多様性は明らかである。その多様性の中にある様々なMSM-SWに対する実情の把握や健康リスク低減のためのアプローチは、それぞれに異なった形が必要となる。恐らく、その中でもっとも健康リスクに曝されているのは、個人交渉型でSWをおこなっている人たちである。しかし、そうではない職業型で働くMSM-SWについてもほとんど調査ができていないため、その実情は明らかではなく、今後、調査を進めていく必要がある。

また、先行研究や今回のインタビューからもわかるように、当然ながら、MSM-SWの性行為はSWだけに囲われている訳ではなく、ハッテン場での性行為やパートナーとの性行為との間にもある。MSM-SWが晒されている健康リスクを考えると、最終的にはそうではないMSMも含めた全体の健康リスクについても考えていくことにもなるであろう。

そして、MSM-SWの現場では、HIV/STI感染予防への十分な配慮に基づいた性行為が行われていたり、あるいは感染リスクの少ない性行為のみが行われていたりする場合もあり、そのような店や個人は、客へのHIV/STIに関する情報提供などの窓口ともなれる可能性がある。

最後に、僅かなインタビュー調査ながら、今回明らかになったことの一つに、AV業界とSW業界との連続性もあった。これは、単にそれらの業界の連続性を見るということだけでなく、MSM-SWの

ネットワークの形成の指摘でもあり、今後の調査や健康リスク低減のアプローチのあり方を検討する上で重要である。

尚、今年度はトランス女性のSWについては調査できなかったが、来年度に進めていきたい。そして最後になるが、MSM-SW やトランス女性-SW へのアプローチには、その問題に取り組んできた当事者・支援者団体あるいは個人との連携が不可避であり、今後、その連携も進めていく予定であることも明記しておきたい。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

(発表雑誌名巻号・頁・発行年なども記入)

なし

## 引用文献

1) 東優子, 2012, 『厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 個別施策層 (とくに性風俗に係る人々・移住労働者) の HIV 感染予防対策とその介入効果に関する研究) 平成 21~平成 23 年度総合研究報告書』

2) Niven H, Jose H, Rawstorne P, Nathan S. ' They love us just the way they love a woman': gender identity, power and transactional sex between men who have sex with men and transgender women in Timor-Leste. *Cult Health Sex.* 2017; 7:1-15

3) Budhwani H, Hearld KR, Hasbun J, Charow R, Rosario S, Tillotson L, McGlaughlin E, Waters J. Transgender female sex workers' HIV knowledge, experienced stigma, and condom use in the Dominican Republic. *PLoS One.* 2017; 2:12(11)

4) Willie TC, Chakrapani V, White Hughto JM. Victimization and Human Immunodeficiency Virus-Related Risk Among Transgender Women in India: A Latent Profile Analysis. *Violence Gend.* 2017; 1:4(4):121-129

5) Fernández-López L, Reyes-Urueña J, Agustí C, Kustec T, Serdt M, Klavs I, Casabona J. The COBATEST network: monitoring and evaluation of HIV community-based practices in Europe, 2014-2016. *HIV Med.* 2018; 19 Suppl 1:21-26

6) Poteat, Ackerman, Diouf, Ceesay, Mothopeng, Odette KZ, Kouanda S, Ouedraogo HG, Simplicite A, Kouame A, Mnisi Z, Trapence G, van der Merwe LLA, Jumbe V, Baral S. HIV prevalence and behavioral and psychosocial factors among transgender women and cisgender men who have sex with men in 8 African countries: A cross-sectional analysis. *PLoS Med.* 2017; 7:14(11)

7) Crosby RA, Salazar LF, Hill B, Mena L. A comparison of HIV-risk behaviors between young black cisgender men who have sex with men and young black transgender women who have sex with men. *Int J STD AIDS.* 2018; Jan

8) Lama JR, Lucchetti A, Suarez L, Laguna-Torres A, Guanira JV, Pun M, et al. Association of Herpes Simplex Virus Type 2 Infection and Syphilis with Human Immunodeficiency Virus Infection among Men Who Have Sex with Men in Peru. *JID.* 2006; 194:1459-1466.

9) Jacobson JO, Sánchez-Gómez A, Montoya O, Soria E, Tarupi W, Chiriboga Urquizo M, et al. A Continuing HIV Epidemic and Differential

Patterns of HIV-STI Risk among MSM in Quito, Ecuador: An Urgent Need to Scale Up HIV Testing and Prevention. *AIDS Behav* Published Online First. Apr 26. 2013

10) Wade AS, Kane CT, Diallo PAN, Diop AK, Gueye K, Mboup S, et al. HIV infection and sexually transmitted infections among men who have sex with men in Senegal. *AIDS*. 2005; 19:2133-2140.

11) Catherine E. Oldenburg,, Amaya G. Perez-Brumer, Sari L. Reisner, and Matthew J. Mimiaga. Transactional sex and the HIV epidemic among men who have sex with men (MSM): Results from a systematic review and meta-analysis. *AIDS Behav*. 2015; 19(12): 2177-2183

12) Grov C, Koken J, Smith M, Parsons JT. How do male sex workers on Craigslist differ from those on Rentboy? A comparison of two samples. *Cult Health Sex*. 2017; 19(4):405-421

13) MacPhail C, Scott J, Minichiello V. Technology, normalisation and male sex work. *Cult Health Sex*. 2015;17(4):483-95

14) Minichiello V, Scott J, Callander D. New pleasures and old dangers: reinventing male sex work. *J Sex Res*. 2013;50(3-4):263-75

15) Verhaegh-Haasnoot A, Dukers-Muijers NH, Hoebe CJ. High burden of STI and HIV in male sex workers working as internet escorts for men in an observational study: a hidden key population compared with female sex workers and other men who have sex with men. *BMC Infect Dis*. 2015; 15:291

16) Cai YM, Song YJ, Liu H, Hong FC. Zhonghua Yu Fang Yi Xue Za Zhi. Factors associated with commercial sexual behavior among men who have sex with men in Shenzhen, China, in 2011-2015. *Zhonghua Yu Fang Yi Xue Za Zhi*. 2016; 6:50(11):943-948 (Translated in PubMed)

17) G Sethi, B M Holden, J Gaffney, L Greene, A C Ghani, and H Ward. HIV, sexually transmitted infections, and risk behaviours in male sex workers in London over a 10 year period. *Sex Transm Infect*. 2006; 82(5): 359-363.

18) Ballester R, Salmeron P, Gil MD, Gomez S. Sexual risk behaviors for HIV infection in Spanish male sex workers: differences according to educational level, country of origin and sexual orientation. *AIDS Behav*. 2012;16(4):960-8

19) Solomon MM, Nureña CR, Tanur JM, Montoya O4, Grant RM, McConnell JJ. Transactional sex and prevalence of STIs: a cross-sectional study of MSM and transwomen screened for an HIV prevention trial. *Int J STD AIDS*. 2015 Oct;26(12):879-86

20) Kristen Underhill, Kathleen M. Morrow, Christopher M. Collieran, Richard Holcomb, Don Operario, Sarah K. Calabrese, Omar Galárraga, 4 and Kenneth H. Mayer. Access to Healthcare, HIV/STI Testing, and Preferred Pre-Exposure Prophylaxis Providers among Men Who Have Sex with Men and Men Who Engage in Street-Based Sex Work in the US. *PLoS One*. 2014; 9(11)

21) Underhill K1, Morrow KM, Collieran C, Holcomb R, Calabrese SK, Operario D, Galárraga O, Mayer KH. A Qualitative Study of Medical

Mistrust, Perceived Discrimination, and Risk Behavior Disclosure to Clinicians by U. S. Male Sex Workers and Other Men Who Have Sex with Men: Implications for Biomedical HIV Prevention. *J Urban Health*. 2015; 92(4):667-86

22) Guadamuz TE, Clatts MC, Goldsamt LA. Heavy Alcohol Use Among Migrant and Non-Migrant Male Sex Workers in Thailand: A Neglected HIV/STI Vulnerability. *Subst Use Misuse*. 2018; 20:1-8

23) Tan D, Holloway IW, Gildner J, Jauregui JC, Garcia Alvarez R, Guilamo-Ramos V. Alcohol Use and HIV Risk Within Social Networks of MSM Sex Workers in the Dominican Republic. *AIDS Behav*. 2017; 21(Suppl 2):216-227

24) Gary Yu, Michael C. Clatts, Lloyd A. Goldsamt, Le Minh Giang. Substance Use among Male Sex Workers in Vietnam: Prevalence, Onset, and Interactions with Sexual Risk. *Int J Drug Policy*. 2015; 26(5): 516-521.

25) Catherine E. Oldenburg, Amaya G. Perez-Brumer, Katie B. Biello, Stewart J. Landers, JD, Joshua G. Rosenberger, David S. Novak, Kenneth H. Mayer, Matthew J. Mimiaga. Transactional Sex Among Men Who Have Sex With Men in Latin America: Economic, Sociodemographic, and Psychosocial Factors. *American Journal of Public Health*. 2015; Vol 105, No. 5.

26) Klingelschmidt J, Parriault MC, Van Melle A, Basurko C, Gontier B, Cabié A, Hoen B, Sow MT, Nacher M. Transactional sex among men who have sex with men in the French Antilles and French Guiana: frequency and associated factors. *AIDS Care*. 2017; Jun;29(6):689-695

27) 地域において HIV 陽性者と薬物使用者を支援する研究班, 2017, 『平成 29 年度 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業「LASH 調査」報告書』

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】  
H I V検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究  
(分担)研究報告書

性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨

＜東京における A 型肝炎の流行対策による、  
MSM へ向けた性感染流行の迅速な啓発方法の検討＞

研究分担者 : 今村 顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院)  
研究協力者 : 砂川 秀樹 (明治学院大学国際平和研究所)  
生島 嗣 (特定非営利活動法人ふれいす東京)  
荒木 順子 (特定非営利活動法人 akta)  
カエベタ 亜矢 (新宿区保健所 保健予防課)  
堅多 敦子 (東京都福祉保健局健康安全部エイズ・新興感染症担当課)

研究要旨

性感染症の流行する環境は時代とともに大きく変化してきており、その多くの情報が、雑誌、ウェブページ、SNS 等で、より広く急速に発信されるようになっている。従って、現代の環境に合ったハイリスク層への情報提供法の確立は、性感染症の啓発や受検勧奨における喫緊の課題の一つと考えられている。

本研究では、東京を中心とした MSM の、A 型肝炎の流行への緊急対策を行った。その計画を進める中で、行政担当者、保健所、そして各 NPO 等との協力によって、医学的情報や具体的な感染予防策などを、より迅速にハイリスク層へ伝える方法を検討することができた。

性感染症の流行拡大への緊急対応としては、情報伝達の迅速性が重要な課題であった。その一方で、便を介して性行為で感染するという A 型肝炎の情報を伝える際には、ゲイバッシングにつながるリスクも念頭におき、ハイリスク層へ集中して情報が流れるような配慮も必要とされた。従って、この A 型肝炎の流行対策においては、一般的な感染症の流行への対応以上に、現場コミュニティーと繋がっている NPO 等との密接な連携が重要なポイントとなった。

対象に合った情報をまとめたチラシ等の作成、ホームページ・スマホアプリ・SNS 等を利用した情報拡大など、今回の対策によって確立された啓発方法は、MSM における今後の性感染流行においても、ハイリスク層へ集中的に、かつ迅速に啓発情報を提供するための対策として役立つものとなるだろう。

A.研究目的

性感染症の流行する環境は時代とともに大きく変化してきており、その多くの情報が、雑誌、ウェブページ、SNS 等で、より広く急速に発信されるようになっている。従って、現代の環境に合ったハイリスク層への情報提供法の確立は、性感染症の啓発や受検勧奨における喫緊の課題の一つと考えられている。

現在、東京を中心とした MSM (Men who have Sex with Men) の中での、性行為による A 型肝炎の流行が大きな問題となっている。複数の拠点病院に通院している HIV 陽性者からの、A 型肝炎の発生報告が急増してきたため、東京都からもアラートが出されることとなった。本研究では、この A 型肝炎流行への緊急対応によって、現代の環

境に合った対策を、行政やNPOとの連携によって検討する。そして、性感染症の医学的な情報、感染予防策などを、より迅速にハイリスク層へ伝えるために有効な方法を確立することを目指す。

## B.研究方法

本分担研究は、東京都におけるMSMのA型肝炎流行に対して、東京都福祉保健局健康安全部のエイズ担当、都内流行地の保健所、ふれいす東京、コミュニティーセンターaktaとの協力によって計画された。

A型肝炎の流行や対策に関する情報を提供するために、チラシ等の資料作成、資料の配付先の決定、そしてホームページ・スマホアプリ・SNS等を利用した情報拡大など、ハイリスク層であるMSMへ、広く迅速に情報を提供できる方法を検討した。また、東京都との連携によって、拠点病院や保健所・検査所への情報提供も行った。これらの啓発活動は、本報告書の作成時点でも継続中であり、ホームページやスマホアプリ等については、そのアクセス評価も行う予定である。

### (倫理面への配慮)

本研究によって得られた情報については、社会的な影響も考慮して慎重に扱い、対象者への迅速な還元を努めた。また、流行情報の広告を行う際にも、セクシャルマイノリティーへのバッシングに繋がるリスクも念頭におき、情報発信の範囲を広げすぎない等の注意を払って行う方針とした。

## C.研究結果

東京都におけるMSMのA型肝炎流行に対する効果的な情報提供の方法が、感染症の専門医師(本研究の分担研究者)、東京都のエイズ・新興感染症担当、ふれいす東京、コミュニティーセンターaktaとの協力によって検討された。その結果、以下のような方法によって、短期間にハイリスク層へ集中した啓発広報を行う方針が決まった。これらの緊急対策による啓発は、現時点でも継続され

ている。そして、啓発に利用したホームページや、バナー広告を貼ったスマホアプリについては、そのアクセス評価も行うことを計画している。

### 1) 東京都による啓発チラシの作成 (図2)

東京都のエイズ・新興感染症担当が、A型肝炎の流行に関する情報を伝えるための啓発チラシを作成した。その情報をわかりやすく伝えるために、医療情報については感染症の専門医師(本研究の分担研究者)が監修を行った。作成されたチラシは、以下のような各方面に配布された。

- ・東京都のエイズ拠点病院
- ・南新宿検査・相談室、多摩地域検査・相談室における対象者へのチラシ配布
- ・各NPO法人 [ふれいす東京、コミュニティーセンター(akta)、日本HIV陽性者ネットワーク(JaNP+)、HIVと人権・情報センター(JHC)] へのチラシの送付。その後、各NPOからはSNSなどを通じての情報発信も開始された。

### 2) 啓発ポスターやチラシによる情報提供

- ・啓発ポスターとチラシの作成
- ・QRコードによる啓発ページへのリンク
- ・ハッテン場、街へのポスターやチラシの配布

NPOとの連携により、MSMの中でA型肝炎の流行が始まっているという情報を伝えるための啓発ポスターとチラシが作成された。(図3)ポスターやチラシの中には、下記のHIVマップにつくられたA型肝炎の特設ページにリンクさせる「QRコード」を設置した。作成されたポスターやチラシは、NPOによってハッテン場や街への配布が行われている。

### 3) ゲイ向けの、雑誌、スマホアプリ、ホームページを利用した情報提供

- ・WEB情報誌への広告記事の掲載
- ・HIVマップに特設ページを作成 (図4)

<http://www.hiv-map.net/hepatitis-a/>

- ・ゲイ向けサイトにバナーを貼り、啓発ページにリンクさせる
- ・MSM 向け雑誌に広告記事を掲載
- ・Facebook 等の SNS による情報の発信

ゲイ向けの雑誌、ホームページ・スマホアプリ・SNS など、ハイリスク層である MSM へ、広く迅速に情報を提供できる方法として、上記のような対応を行った。これらの医療情報については、感染症の専門医師(本研究の分担研究者)が監修を行った。各対応については、MSM の現場に密接に繋がっている NPO の積極的な協力によって進められた。また、東京都のエイズ・新興感染症担当は、各 NPO との連携や進行状況の確認等の役割も担った。

#### D. 考察

A 型肝炎は、一般的には食品を介しての感染するウイルス感染症として知られている。しかし、MSM を中心とした性感染症でもあるという事実を理解している人は少ない。MSM においては、性行為の中で手指を介して間接的に便が口に入る場合だけでなく、肛門周囲を直接舐める行為、あるいは多人数による性行為で男性器を舐めるオーラルセックス等によっても、A 型肝炎ウイルスが感染する可能性がある。

また、A 型肝炎に感染した人においては、発症する前からウイルスが便中に排出される。そして、2～7週間という比較長い潜伏期間で発症し、症状が改善した後もしばらくはウイルスの排出が持続する。従って、一度大きな流行が始まってしまうと、その終息までには長期間を要することも特徴である。

我が国においても、1998～1999 年に MSM の中での A 型肝炎の大きなアウトブレイクがあったが、全国各地での流行が終息するまでには長い期間を必要とした<sup>1)</sup>。また近年も、台湾での大規模な流行<sup>2)</sup>、欧州や米国での流行<sup>3)</sup>などの報告もあり、A 型肝炎は MSM における重要な性感染症の一つと考えられるようになっている。

本研究では、行政担当や NPO との連携によって、MSM における A 型肝炎アウトブレイクへの緊急対応を行った。性感染症の流行する環境は時代とともに大きく変化してきており、その多くの情報が、雑誌、ウェブページ、SNS 等で、より広く急速に発信されるようになっている。従って、今回の A 型肝炎の対策を進める中では、現代の環境に合った情報提供法を確立するために、医学的情報や予防方法などを、より迅速にハイリスク層へ伝える方法を検討した。

性感染症の流行拡大への緊急対応としては、情報伝達の迅速性が重要な課題であった。その一方で、便を介して性行為で感染するという A 型肝炎の情報を伝える際には、ゲイバッシングにつながるリスクも念頭におき、ハイリスク層へ集中して情報が流れるような配慮も必要とされた。従って、この A 型肝炎の流行対策においては、一般的な感染症の流行への対応以上に、現場コミュニティと繋がっている NPO 等との密接な連携が重要なポイントとなった。自治体からエイズ拠点病院や保健所・検査所への情報提供だけでなく、各 NPO 団体が積極的に行政の対策に参加した啓発がなかったとしたら、このような性感染症の流行への対策を行うことは不可能であった、ということを改めて強調したい。

#### E. 結論

本研究では、東京を中心とした MSM の、A 型肝炎の流行への緊急対応を行った。その計画を進める中で、行政担当者、保健所、そして各 NPO 等との協力によって、医学的情報や具体的な感染予防策などを、より迅速にハイリスク層へ伝える方法を検討することができた。対象に合った情報をまとめたチラシ等の作成、ホームページ・スマホアプリ・SNS 等を利用した情報拡大など、今回の対策によって確立された啓発方法は、MSM における今後の性感染流行にも役立つものとなるはずである。

## 【参考文献】

- 1) 武市朗子 他. 男性同性愛者における急性 A 型 肝炎の流行についての検討. 感染症誌 74 : 716~719, 2000
- 2) Nan-Yu Chen et al. Clinical characteristics of acute hepatitis A outbreak in Taiwan, 2015-2016: observations from a tertiary medical center. BMC Infect Dis. 2017; 17: 441.
- 3) Hepatitis A outbreaks mostly affecting men who have sex with men - European Region and the Americas.  
<http://www.who.int/csr/don/07-june-2017-hepatitis-a/en/>

## F.健康危険情報

なし

## G.研究発表等

### 1. 論文発表

- 1) Kato H, Imamura A. Unexpected Acute Necrotizing Ulcerative Gingivitis in a Well-controlled HIV-infected Case. Intern Med 2017. 56: 2223-2227.
- 2) 田中勝, 柳澤如樹, 福島一彰, 佐々木秀悟, 今村顕史, 味澤篤. 抗 HIV 薬と抗がん剤の併用療法が奏功した extracavitary primary effusion lymphoma を合併した HIV 感染者の 1 例. 感染症学雑誌 2017. 91: 411-415.
- 3) Masanori Furuhashi, Naoki Yanagisawa, Shingo Nishiki, Shugo Sasaki, Akihiko Suganuma, Akifumi Imamura, Atsushi Ajisawa: Severe Thrombocytopenia and Acute Cytomegalovirus Colitis during Primary Human Immunodeficiency Virus Infection. Intern Med 2016. 55(24): 3671-3674.
- 4) 錦信吾, 柳澤如樹, 佐々木秀悟, 関谷綾子, 関

谷紀貴, 菅沼明彦, 味澤篤, 今村顕史: KICS が疑われ, 抗 HIV 療法にて改善を認めた HIV 感染者の 1 例. 感染症学雑誌 2016. 90(4): 512-517.

5) 福島一彰, 柳澤如樹, 佐々木秀悟, 関谷綾子, 関谷紀貴, 菅沼明彦, 味澤篤, 今村顕史: 眼症状を契機に梅毒と HIV 感染の合併が判明した 3 例. 感染症学会誌 2016. 90(3): 310-315.

6) 今村顕史(HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班): 抗 HIV 薬の副作用. 抗 HIV 治療ガイドライン 2016; 70-83.

7) 嶋根卓也, 今村顕史, 池田和子, 山本政弘, 辻真理子, 長与由紀子, 大久保猛, 太田実男, 神田博之, 岡崎重人, 大江昌夫, 松本俊彦. DAST-20 日本語版の信頼性・妥当性の検討. Jpn.Alcohol & Drug Dependence 2015. 50(6), 310~324.

8) 今村顕史:処方教室 : HIV 感染症 The Journal of Recipe 2015. 14(3):3-9.

9) Yanagisawa N, Suganuma A, Imamura A, Ajisawa A, Ando M. Comparison of cystatin C and creatinine to determine the incidence of composite adverse outcomes in HIV-infected individuals. J Infect Chemother 2015. 21(2): 84-89.

### 2.学会発表

- 1) 今村顕史.梅毒啓発を利用した新たな HIV 受検奨励法についての検討. 日本エイズ学会、2017 年、東京.

## H.知的所有権の出願・登録状況 (予定を含む)

①特許取得

なし

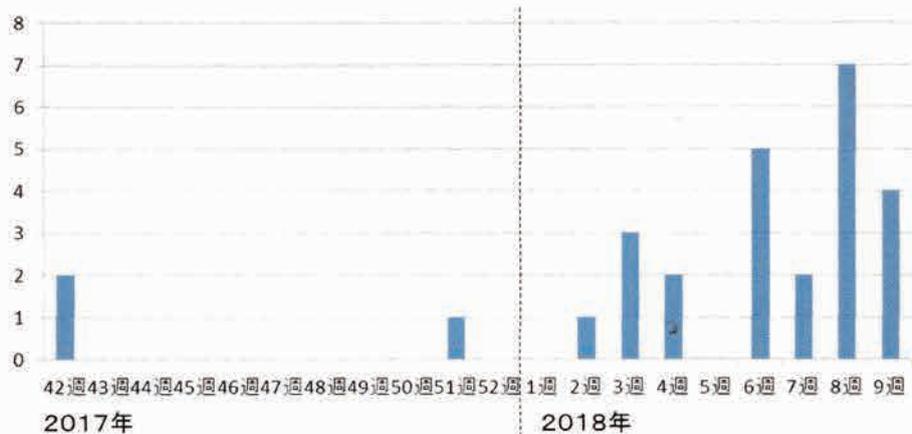
②実用新案登録

なし

③その他

なし

(図1) 東京都におけるA型肝炎の流行状況 <保健所受理の届出件数>



(図2) 東京都の拠点病院へのA型肝炎の流行情報に関する啓発チラシ

**性行為を原因とするA型肝炎患者が増えています！**

2018年に入ってから東京都内におけるA型肝炎患者の割合が、発症原因で性行為を感染源とする割合が、すでに昨年1年間の半数を超えています。

**A型肝炎って？**

A型肝炎ウイルスは非常に感染力が強く、汚染された食物、水などを経口から吸入し、付着して感染して急性肝炎を引き起こします。  
ウイルスは、症状が出る前から出てからしばらくは便に排出されます。特効薬はありません。症状に応じて治療法のみです。

**主な症状** スーパースタ  
急な発熱、全身の倦怠感、食欲不振、嘔吐（風邪に似た症状）  
↓  
特徴 悪化して劇症肝炎や肝不全になること  
症状が続く場合は医師に相談を！！

**注意ポイント！**

口交を介して感染するため、リミング（肛門周囲をなめる行為）やアナルセックスなどの性行為でも感染します。  
○症状が治癒しても、人に感染させることがあります。

**予防が大切！**

十分な手洗い  
トイレの便器・洗面・食事の取り口は、石鹸と流水で十分なすすぎ  
ワクチンも有効  
接種については、医師と十分相談を

（参考）国立感染症研究所HP、東京都感染症情報センターHP

東京都保健医療庁健康増進課  
東京都感染症対策センター  
東京都感染症対策センター（東京都健康増進センター）

(図3) 東京都の拠点病院へのA型肝炎の流行情報に関する啓発チラシ



(図4) 【HIVマップ】A型肝炎に関する情報ページの作成



厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】  
HIV 検査受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究  
(分担)研究報告書

## 性感染症クリニックの実態調査と啓発

研究分担者：川名 敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野）

### 研究要旨

本研究では、性産業に関わる事業者と従事者の調査によって、多様化・複雑化している性産業の実態を明らかにすることである。性感染症クリニックや地域一般住民の調査も加えることで、現代の性産業における現状を、より多角的な実態調査によって把握する。対象者の調査を行うために行政担当者や当事者グループとの協力体制を構築する。各研究によって得られた調査結果は、より効果的に受検勧奨と予防啓発へと結びつけられるような仕組みとなっている。特に、最近国内外で増加している梅毒については全数報告の対象疾患であり自治体レベルでの実態把握を組み込み、性産業が性感染症の温床とならないようにするための対策を検討している。

### A.研究目的

性感染症は、女性においては、20歳代の若年女性が標的となっている。4大性感染症のいずれも女性の罹患ピークは20歳代にあり、男性のそれと比べると明らかに若年である。これらの女性の感染源を考えると、性産業がその現場となっていることが推定される。

性産業と婦人科領域は関連性が高い。特に若年女性の性感染症の一部は、性産業従事者に集中する。性交渉による望まない妊娠に対する避妊の意識は、性産業従事者の中でも比較的高く経口避妊薬等による予防が容易である。しかし、性感染症については、女性自身だけで予防し切れるものではない。性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、梅毒は、性的接触によって容易に感染する性感染症である。

その中で、近年問題となっているのが梅毒である。また、梅毒の温床が性産業であるとの報告も国内サーベイランスから見えている。性産業を利用した男性から、一般女性への感染も臨床現場では散見され、それがさらに妊娠と関連した場合には、母子感染を引き起こし先天梅毒に至る。2014年以降、先天梅毒も増加し、性産業に発する感染症が次世代にも影響を及ぼし始めている。

そこで、本研究では、性産業従事者における性感染症の実態調査とその予防のための啓発ツールを検討することを目的とした。性産業従事者は不特定の男性との性的接触が多いことから、病原体への曝露が避けられない。顕性感染では、有症状であることから性産業従事者へのリスク把握が可能となるが、不顕性感染では実際の現場でリスクを知ることが困難である。

性感染症の知識は、健康教育でほぼ得ることができず、かつ高校への未就学の女性もありえる。外国人従事者も考えられる。性産業の店舗への啓発が十分に浸透し切れないと考えると、インターネット等による性感染症の周知が1つのツールである。これまでも多くの団体から性感染症啓発ツールがインターネットでアクセスできる状態になっているにも関わらず、梅毒を中心に性感染症が増加していることを考慮すると、新たな啓発ツールが求められる。

### B.研究方法

H29年度は、性感染症クリニックおよび風俗街を有する自治体の保健所と連携して性感染症の実態調査の体制を確立し、クリニック、保健所への調査を実施し、課題を抽出する。H30年度には、クリニック受診者の実態把握のために、

Case report form(CRF)を用いた詳細な症例調査研究を組み立て、受診者における梅毒などの治療内容とその効果判定の有無などを調べて、蔓延の原因検索を行う。H31年度に性感染症クリニックおよび一般市民に向けた啓発ツールを作成し、これをクリニックや保健所に配布するとともに、適宜、性感染症の診療ガイドラインの改訂に繋げるという計画で研究を開始することとした。

H29年度は、実態調査をするための協力機関の選定を行い、調査依頼を行うとともに調査内容のブラッシュアップを行う。また、アンケート調査の研究倫理審査の申請に向けた準備を行う。また、梅毒に関する実態調査を日本産科婦人科学会のもとで担当したデータを再度解析して、妊婦における梅毒の蔓延の実態把握とその原因について検討した。

#### (倫理面への配慮)

アンケート調査において、患者からのアンケートを実施する場合は、無記名アンケートとして個人を同定できないように実施する。また、研究倫理審査は、研究分担者の所属施設(日本大学医学部)で行うこととし協力機関からの倫理審査の委託を受ける予定である。

### C.研究結果

研究開始が2月後半となったために、性感染症クリニックや自治体保健所への調査依頼は今後実施するが、性産業が集中する地域を選定している。都内では台東区、新宿区、神奈川では川崎を候補として性感染症クリニック、保健所との連携を行う。

診療所への調査項目では、性産業従事者の患者数を把握、診断に至った性感染症疾患とその罹患年齢、診療所で調査しているSTIチェック項目、スクリーニングとして行う梅毒、HIV検査の有無、受診間隔や回数、等を抽出した。診療所医師からの予防啓発のツールや口頭での予防啓発の有無を調べ、性感染症クリニック受診が啓発ツールと

して機能しうるかを検討することとした。また、同地域の保健所の協力を得て、性産業従事者の受診行動の把握をめざしている。性感染症予防啓発の第一歩は、医療機関への受診行動であり、そのための啓発が性感染症予防に直結する。

一方で、性感染症クリニックのみならず、一般診療所へ受診する女性も多いことから、一般婦人科医への周知も必要と考えられる。今後、産婦人科医への梅毒を中心とする啓発も検討する。

その一つの試みとして、H28年度に実施した日本産科婦人科学会の「女性ヘルスケア委員会」「本邦における産婦人科感染症実態調査」小委員会」で実施した全国調査の結果を考察した。全国の産婦人科領域専門医機構基幹施設にアンケート調査を行ったものである。257施設からの回答であった。2011-2015年の5年間で166例の梅毒合併妊婦がいて、そのうち3/4が未受診・不定期受診妊婦であり、いわゆる社会的ハイリスク妊婦であった。これらの母親は、妊婦健診の初期スクリーニング検査である梅毒血清反応を受けていなかった。その結果、適切な抗菌剤治療が実施されず、20例(約15%)の母体から生まれた児が先天梅毒を発症した。これらの社会的ハイリスク妊婦が性産業従事者とは言えないが、経済的貧困、家庭内DV、外国人、若年妊娠、等が一般的な背景である。梅毒に感染する機会がどこであったかの調査も今後必要かもしれない。

### D.考察

今後の検討により、性感染症クリニックへの受診行動を促すための啓発ツールには、社会的弱者へのより積極的なアプローチが有用と考えられた。

一方で、3/4の梅毒合併妊婦は定期的に妊婦健診を受診している経済力のある妊婦であることから、それらの女性が梅毒に感染したルートとして男性パートナーの行動が危惧される。これらの男性と性産業の関連性にも注目していくべきと考えられた。

## E. 結論

本年度は限られた時間で調査実施には至らなかったが、来年度に実施すべき調査項目の検討ができた。性感染症クリニックと保健所の協力を得て、性感染症、特に梅毒、の温床となっている現場を絞り込み、積極的なアプローチによる啓発法を確立していきたい。

## F. 健康危険情報

無し

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) ○Iwata S, Okada K, Kawana K, on behalf of the Expert Council on Promotion of Vaccination, Consensus statement from 17 relevant Japanese academic societies on the promotion of the human papillomavirus vaccine, *Vaccine*, 35(18):2291-2292, 2017
- 2) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. Intracellular signaling entropy can be a biomarker for predicting the development of cervical intraepithelial neoplasia. *PLOS One*, 2017
- 3) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T, Regeneration of cervical reserve cell-like cells from human induced pluripotent stem cells (iPSCs): A new approach to finding targets for cervical cancer stem cell treatment, *Oncotarget*, doi: 10.18632/oncotarget.16783, 2017
- 4) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T, Targeting glutamine metabolism and focal adhesion kinase additively inhibits the mammalian target of the rapamycin pathway in spheroid cancer stem-like properties of ovarian clear cell carcinoma *in vitro*. *Int J Oncol*, 2017
- 5) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Taguchi A, Fujikawa T, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Arimoto T,

Wada-Hiraike Osamu, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T, Low uptake of fluorodeoxyglucose in positron emission tomography/computed tomography in ovarian clear cell carcinoma may reflect glutaminolysis of its cancer stem cell-like properties, *Oncol Reports*, 2017

- 6) 川名 敬、国内で話題の感染症—診断と治療、ヒトパピローマウイルス、小児内科、49: 1671-1676, 2017
- 7) 川名 敬、感染症フォーカス、妊婦と感染症、INFECTION FRONT, 39: 8-10, 2017
- 8) 川名 敬、胎盤感染が問題となるウイルス、臨床とウイルス、45: 197-202, 2017

### 2. 学会発表

- 1) 川名 敬、産科領域と関連のある性感染症～次世代へ影響する性感染症～、日本性感染症学会関東甲信越支部会、2017.9.2、東京
- 2) 川名 敬、産婦人科感染症とその随伴疾患～その予防をめざして～、第17回岡山県西部地区産婦人科研究会、2017.9.21、岡山
- 3) 川名 敬、産婦人科に関連する感染症と最新知識、大分感染症研究会、2018.2.22、大分

## H. 知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

### ① 特許取得

無し

### ② 実用新案登録

無し

### ③ その他

無し

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】  
H I V検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究  
(分担)研究報告書

「地域一般住民の性サービスに関わる実態調査と受検勧奨」

研究分担者：土屋菜歩（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門）

研究協力者：渡會 睦子（東京医療保健大学医療保健学部）

堅多 敦子（東京都保健福祉局）

今村 顕史（がん・感染症センター 都立駒込病院）

研究要旨

本研究は、地域一般住民を対象とした実態調査により、性サービスの利用や従事に関することを含む性行動と意識、HIVを含む性感染症とその検査に関する知識、受検行動を明らかにすることを目的としている。今年度は、次年度以降の本調査で用いるアンケート調査項目選定を主な目的とし、先行研究や報告のレビューおよび都内看護系大学生を対象にしたパイロット調査を実施した。

本邦における一般人口を対象とした性行動や性意識に関する調査・研究の報告書・文献のレビューにより、これまでに用いられてきた質問の項目や重点となる項目が明らかになった。一方、性産業の形態やインターネットに関連する情報収集等のツールについては、時代に伴う変化に合わせた項目設定が必要となる可能性が示唆された。今年度のパイロット調査では、インターネットやSNSの利用について先行研究に無かった選択肢も追加しており、パイロット調査の結果を見て来年度以降の本調査の項目を更に調整する予定である。

平成30年3月に看護系大学生を対象とした自記式・無記名のアンケート調査をパイロットで実施した。さらに、少人数を対象とした個別インタビューとグループディスカッションも実施し、アンケートの感想や内容で改善を要する点、設問・回答に関連する性行動・意識の詳細な情報を収集した。アンケートの説明文や選択肢で改善すべき点、盛り込むべき点が明らかになった。インタビューとディスカッションでは、選択肢を選ぶ際の回答者の思考の過程、説明文の解釈や回答の背景などの情報を得ることができた。来年度以降、今年度得られた情報をもとにアンケート項目を調整し、対象を更に広げた本調査を実施する予定である。

A.研究目的

我が国のHIV感染症においては性行為による感染が多くを占めるが、その流行の中心はMSMであり、対策もMSMに焦点を当てたものが多かった。一方で、近年の梅毒の流行では、20歳代を中心とした女性および30-50歳代男性の感染増加が問題となっている。HIVと同じ性感染症の急増するハイリスク層が、女性の中に潜在的に存在

しており、異性間感染のリスクの高い対象者への感染症のハイリスク層として性産業に従事する者とその顧客が知られている。性産業の形態やその従事者、顧客の特性は時代と共に変化している可能性が高く、実態を正確に把握することがより効果的な受検勧奨と予防啓発の対策立案に必須である。本研究では、地域一般住民を対象とした

実態調査により、性サービスの利用を含む性行動と意識、HIVや検査に関する知識を明らかにすることを目的とし、今年度は先行調査のレビュー及びパイロット調査として都内看護系大学生を対象としたアンケート調査を行った。

## B.研究方法

今年度は、次年度以降の本調査で用いるアンケート調査項目選定を主な目的とし、先行研究や報告のレビュー及び都内看護系大学生を対象にしたパイロット調査を実施した。

### ①過去の性行動に関する研究調査の報告書や論文についての文献レビュー

過去の報告書や関連の調査についてレビューを行い、重要と考えられる項目、時代に伴う変化が予想される項目を抽出し、本調査で用いるアンケート調査項目選定の参考とした。

### ②看護系学生に対するアンケート調査

①のレビューを参考にアンケートを作成し、事前に周知・募集に対して調査参加の意思を示した学生を対象としたアンケートのパイロット調査をH30年3月22-23日に実施した。質問紙は説明文を含め8ページで、質問項目としては、対象者自身の性行動、SNS等の利用状況、自身および周囲の金銭の授受を伴う性交渉経験の有無、HIV検査受検経験の有無、HIVを含む性感染症とその検査に関する知識、予防行動などを選定した。アンケートは自記式・無記名とし、結果は研究目的のみに使用され一切個人情報と結び付かないことを説明した上で実施した。回答者には謝礼として500円分のQUOカードが支払われた。

### ③性教育に携わる看護系学生に対する個別インタビューとグループディスカッション

H30年3月14日に1名につき30分程度の個別インタビューと、数名単位でのグループディスカッションを行った。インタビューとディスカッションの前にアンケートの記入を依頼し、アンケートの感想や改善点についての意見を求めた。ま

た、時代と共に変化が予想される、性行動、性に関する意識、SNSの利用状況等について、詳細な情報を収集した。アンケート調査と同様、インタビュー・ディスカッションの内容も研究目的のみに使用され一切個人情報と結び付かないことを重ねて説明した上で実施した。協力者には、謝礼としてQUOカード5,000円分が支払われた。

本研究におけるインタビューとディスカッション、およびアンケートのパイロット調査は東京医療保健大学倫理審査委員会の倫理審査を受け実施した。

## C.研究結果

### ①過去の性行動に関する研究調査の報告書や論文についての文献レビュー

本邦における一般人口を対象とした性行動や性意識に関する調査・研究は性教育、リプロダクティブ・ヘルス、性感染症予防の文脈で行われているものが多かった。デザインとしては単回の横断調査、数年おきの複数回横断調査が多く、近年はインターネットを用いて回答を行うインターネット調査が増加する傾向にあった。調査対象者の年齢は調査によって若干異なるものの、10代後半-60代までの年齢層を対象としたものがほとんどであった。過去の調査における共通の質問項目として、基本情報（性別、年齢、職業、学歴、婚姻状態、収入等）以外では以下のようなものがあつた。

- ・性交渉経験の有無
- ・初めての性交渉の年齢
- ・初めての性交渉の相手
- ・同性との性交渉経験の有無
- ・金銭のやり取りを伴う性交渉の有無
- ・性交渉の頻度
- ・コンドーム使用の有無
- ・コンドーム使用/非使用の理由
- ・性感染症検査受検経験の有無

また、一部の調査で共通している質問項目には、

・これまでに受けた性感染症予防に関する教育や啓発の内容とそれに対する意識

・PCやインターネットの利用状況

### ②看護系学生に対するアンケート調査

結果について現在集計作業中である。

### ③性教育に携わる看護系学生に対する個別インタビューとグループディスカッション

インタビューから、アンケートの説明文で分かりにくかった箇所、回答の選択肢が選びにくかったり不十分だと思われたりする箇所が明らかになった。性に関する意識・行動を詳細に問われる内容自体には抵抗感や不快感を持った協力者はいなかった。アンケート・インタビューの実施前に、研究者から回答内容は研究目的のみに使用され、回答内容等から個人が同定されたり第三者に回答内容を知られたりすることは無いことを説明されたことで、安心して回答できたという意見があった。

インタビュー・ディスカッションから得られた性行動・意識の詳細に関する情報は以下の通りであった。

・初めての性交渉の年齢は10代前半で経験する者、20代以降でも経験しない者に二極化しているが、女子学生においては双方の層がそのことで干渉し合ったりすることはあまりない。

・男性では「大学生のうちに童貞を捨てたい」「彼女ができたときに少しは慣れていないと困るので風俗で練習しておく」などの理由で性交渉の経験を急いだり、風俗の利用に繋がったりする場合がある。

・男性では、学校やバイト先などの先輩に勧められたり連れて行かれたりして風俗を利用するきっかけが生まれることがある。

・初めての性交渉の経験において、オーラルセックスの経験と挿入を伴う性交の経験の時期が年単位で離れている場合もあり、どちらを初めての性交渉と意識するかは個人によって異なる可能性がある。

・コンドームを女性側で購入することはほぼない

(購入したり、選んだりしているのを見られるのが恥ずかしい)

・初めてコンドームそのものを実際見たり手にしたりしたのは、性交渉で相手が使用したときだった。

・学校で性や性感染症について学ぶ機会はあったが、知識として「勉強する」感じであり、必ずしも自分のこととして感じられるものではなかった。

・もっと性や性感染症のことが身近に意識できるような情報提供が大切ではないか

・性に関する情報は身近な友人と交換することが多く(飲み会などが機会になることが多い)、雑誌やネットなどの媒体から積極的に情報を検索したりして得ることは少ない。

## D.考察とまとめ

先行研究のレビューにより、過去のアンケート調査で用いられてきた質問項目や着眼点が明らかになった。インターネットやSNSなどの情報リソース、利用している性産業・風俗の形態等は時代とともに変化しており、来年度以降の調査においては変化を反映した項目設定が必要になると考える。今年度のパイロット調査では、インターネットやSNSの利用について先行研究に無かった選択肢(facebook, LINE, twitter, instagramなど)も追加しており、パイロット調査の結果を見て来年度以降の本調査の項目を調整する予定である。

インタビューとディスカッション、パイロット調査からは、アンケートの説明文や選択肢で改善すべき点、盛り込むべき点が明らかになった。インタビューとディスカッションでは、選択肢を選ぶ際の回答者の思考の過程、説明文の解釈や回答の背景などの詳細な情報を得ることができた。来年度以降、今年度得られた情報をもとにアンケート項目を調整し、対象をさらに広げた本調査を行う予定である。

謝辞：調査にご協力くださった回答者の皆様，また，回答を呼びかけてくださった協力者の皆様に心から感謝申し上げます。

## E.文献

1. 徐淑子、東優子他 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究. 平成 18～19 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」総括・分担研究報告書（研究代表 東優子）2007；2008
2. 野坂祐子、内海千種、東優子、徐淑子、洪井哲也 青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルスの問題－携帯電話の web アンケートを用いた調査から－平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」総括・分担
3. JEX の『ジャパン・セックス・サーベイ』からみる日本人の性行動の実態. 平成 25 年 7 月 1 日
4. 北村邦夫 「性感染症罹患者の性意識ならびに性行動様式に関する研究」報告（概要）. 現代性教育研究ジャーナル.2013; vol22
5. 木原正博，木原雅子他：日本の HIV/STD 関連知識，性行動，性意識についての全国調査－日本人の HIV/STD 関連知識，性行動，性

意識に関する性・年齢別分析. 厚生科学研究補助金 HIV 感染症の疫学研究班平成 11 年度報告書，2000.

6. 金子典代，塩野徳史，コーナ・ジェーン，新ヶ江章友，市川誠一：日本人成人男性における生涯での HIV 検査受検経験と関連要因. 日本エイズ学会誌 14：99-105，2012.
7. 「若者の性」白書 第 7 回青少年の性行動全国調査報告.2013
8. 北村邦夫：第 5 回男女の生活と意識に関する調査報告書，2011.
9. 東京都幼・小・中・高・心性教育研究会 2014 年度 児童・生徒の性に関する調査報告
10. 西村由実子、日高庸晴 日本の就労成人男性における HIV/AIDS 関連意識と行動に関するインターネット調査. 日本エイズ学会誌 15 (3) 183-193, 2013

## F.健康危険情報

該当なし

## G.研究発表

### 1.論文発表

なし

### 2.学会発表

なし.

## H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

## HIVと性感染症に関する意識・行動のアンケート

この調査は、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究」(代表者:今村顕史)の一部である「地域一般住民の性サービスに関わる実態調査と受検勧奨」(分担研究者:土屋菜歩)で実施されるものです。

### <あなた自身のことについて>

1. 性別を教えてください。

男性 女性 その他

2. 年齢を教えてください。

( )歳

3. 今誰と住んでいますか。

1人暮らし 恋人/パートナー/配偶者と2人で 家族と2人以上で  
寮やシェアハウスなど多人数で その他( )

### <あなたの生活習慣および普段の行動について教えてください>

1. タバコ(電子タバコ、加熱式タバコを含む)を飲む頻度を下から選んで下さい。

全く吸わない 1カ月以上吸っていない ときどき吸う 毎日吸う  
その他( )

2. お酒を飲む頻度を下から選んで下さい。

全く飲まない 月2-3回飲む 週2-3回飲む 毎日飲む  
その他( )

3. 勉強や仕事以外でインターネットを使う時間を下から選んで下さい。

全く使わない 1時間未満 1時間以上2時間未満 2時間以上3時間未満  
3時間以上5時間未満 5時間以上

4. ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の中で利用したことがあるものを、いくつでも選んで下さい。

Facebook Instagram Twitter LINE GREE  
ameba mixi Google+ モバゲー その他( )

5. 国内旅行に行く頻度を教えてください。

年2回以上行く 年1回くらい行く 2年以上行っていない

6. 海外旅行に行く頻度を教えてください。

年2回以上行く 年1回くらい行く 2年以上行っていない

7. あなたには今、次のような友人がいますか？

1) 学校や職場でよく話す友人

いる いないのでほしい いないが、特にほしいと思わない

2) 一緒に出かける友人

いる いないのでほしい いないが、特にほしいと思わない

3) なんでも打ち明けて話せる友人

いる いないのでほしい いないが、特にほしいと思わない

#### <性に関する意識と行動について>

1. あなたはこれまで性的なことに興味を持ったことがありますか。

ない ある

2. 性やセックスに関することを話す相手がありますか(複数回答可)。

いない 直接会う機会のある友人、知人 インターネットの中の友人、知人

学校や職場の先輩や後輩 兄弟、姉妹 親 学校の先生

その他( )

3. 性やセックスに関する情報はどこから得ていますか(複数回答可)。

新聞や雑誌の記事 その他の本 インターネット テレビ

アダルトビデオ マンガ 学校の授業 直接会う機会のある友人、知人

インターネットの中の友人、知人 学校や職場の先輩や後輩 兄弟、姉妹

親 学校の先生 その他( )

4. あなたは友人の性的な行動や経験が、どのくらい気になりますか。

非常に気になる 少しは気になる あまり気にならない 全然気にならない

5. あなたはインターネットや携帯電話などの「出会い系サイト」に興味を持ったことがありますか。

ない ある

6. あなたは「出会い系サイト」で次のような経験がありますか。

出会い系サイトの経験がない 出会い系サイトに接続したことがある

出会い系サイトを通じて誰かと知り合ったことがある

7. 「出会い系サイトを通じて誰かと知り合ったことがある」と答えた方にお聞きします。出会い系サイトで知り合った人とその後どのような関係になりましたか。(あてはまるものはいくつでもをつけて下さい。)

会わないがメールやチャットをする友人  電話で話す友人  会って遊ぶ友人  
 恋人、パートナー  セックスをする相手(セフレ)  その他( )

8. あなたは SNS で誰かと知り合ったことがありますか。

ない  ある

9. 「SNS で誰かと知り合ったことがある」と答えた方にお聞きします。SNS で知り合った人とその後どのような関係になりましたか。(あてはまるものはいくつでもをつけて下さい。)

会わないがメールやチャットをする友人  電話で話す友人  会って遊ぶ友人  
 恋人、パートナー  セックスをする相手(セフレ)  その他( )

10. これまでに性交渉(セックス)をしたことがありますか。

はい  いいえ(→<HIV/エイズ、性感染症の知識について>に進んで下さい)

11. 初めて性交渉(セックス)をしたのはいつですか。

15 歳未満  15-19 歳  20-24 歳  25 歳以上

12. 初めて性交渉(セックス)をした相手はどのような人でしたか。

恋人  婚約者、配偶者  友人  知り合い  
 ナンパ等で知り合ったその場限りの人  
 性産業(ソープランド、デリヘルなど)で働く人  
 お金や物をくれた相手  その他( )

13. 初めて性交渉(セックス)をした相手の年齢であてはまるものを選んで下さい。

自分より年上  自分より年下  同じ年  わからない

14. あなたは同性を好きになったことがありますか。

はい  いいえ

15. 同性と性交渉(セックス)をしたことがありますか。

はい  いいえ(→17に進んで下さい)

16. 初めて同性と性交渉(セックス)をしたのはいつですか。

15歳未満 15-19歳 20-24歳 25歳以上

17. あなたの友人や知人にお金や物品のやり取りを伴う性交渉(セックス)をしている人はいますか。

いる いると思う いないと思う いない

18. あなたはお金や物品のやり取りを伴う性交渉(セックス)をしたことがありますか。

お金や物品を与えて性交渉(セックス)をしたことがある  
お金や物品を受け取って性交渉(セックス)をしたことがある  
仕事として性交渉(セックス)をしたことがある  
上のいずれもない

<避妊、性感染症の予防について>

1. あなたは性交渉(セックス)をするとき、エイズや性感染症(性病)のことが気になりますか。

非常に気になる 少し気になる あまり気にならない 全然気にならない

2. あなたは性交渉(セックス)をするとき、妊娠の可能性が気になりますか。

非常に気になる 少し気になる あまり気にならない 全然気にならない

3. これまでの性交渉(セックス)で、コンドームを使用していましたか。

毎回使用していた 時々使用していた たまに使用していた ほとんど使用していなかった 全く使用していなかった

4. コンドームを使用するときの理由を教えてください。

性感染症予防のため 確実な避妊方法だと思うから 相手に言われたから  
セックスをした場所においてあった なんとなく この中にはない

5. コンドームを使わないときの最も大きな理由は何ですか。

値段が高い 買うのが恥ずかしい 面倒だ  
持っていなかった 使わない方が気持ちいい 相手がいやがる  
妊娠を希望している、妊娠してもよいと思っている 性感染症を心配していない  
失敗することがあると聞いたのでしても無駄だと思った  
痛くなるから 装着する前に冷静にならないといけない 見た目が悪い  
なんとなく その他 ( )

<HIV/エイズ、性感染症の知識について>

1. 下の性感染症について、知っていますか。それぞれについて最もあてはまるものを選んで下さい。

1) HIV/エイズ

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

2) 梅毒

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

3) クラミジア

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

4) 淋病(りんびょう)

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

5) 性器ヘルペス

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

6) 性器カンジダ症

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

7) 膣トリコモナス症

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

8) 尖型コンジローマ

聞いたこともない 名前は聞いたことがある どのような病気か知っている  
どのように予防すればよいか知っている。

2. HIV/エイズについて正しいと思うものを選んで下さい。

1) HIV とエイズは異なるものである

はい いいえ

2) HIV はオーラルセックスでは感染しない

はい いいえ

3) HIV に感染していても症状が出ずに気づかないことがある

はい いいえ

4) HIV 感染に気づかずにいると、セックスを通じて誰かにうつすことがある

- はい いいえ
- 5) HIV感染に気づいている人は、治療を継続することで血液からウイルスがほとんど見つからなくなる
- はい いいえ
- 6) セックスの相手が HIVに感染している場合でも、感染に気づき治療を継続している場合には、感染の可能性は非常に低くなる
- はい いいえ
- 7) 性感染症(HIV以外)にかかっていると、HIVに感染しやすくなる
- はい いいえ
- 8) HIVに感染していても、早期に治療を開始すれば、長く生きられる
- はい いいえ
- 9) HIVに感染していても、子どもを作ることができる
- はい いいえ
- 10) 通院し治療を受けても、HIV のプライバシーは守られ、役所、病院などから職場や学校に勝手に伝わらない
- はい いいえ
- 11) 自分の名前や住所を言わずに無料で HIV 検査が受けられる場所がある
- はい いいえ
- 12) HIV の治療費を安く抑えられる社会制度がある
- はい いいえ

3. 梅毒に関して正しいと思うものを選んで下さい。

- 1) キスでもうつることがある
- はい いいえ
- 2) 女性が梅毒に感染して気づかないまましていると、将来子どもができたときに子どもの体に影響が出ることがある
- はい いいえ
- 3) 梅毒に感染していても長期間症状が出ない場合がある
- はい いいえ
- 4) 梅毒は免疫がつくので一度感染して治療をすれば二度とかからない
- はい いいえ
- 5) 決まった相手とのセックスだけなら、梅毒の感染は心配しなくともよい
- はい いいえ
- 6) 自分が治療をすれば、パートナー(セックスの相手)は治療しなくともよい
- はい いいえ
- 7) 日本では梅毒の感染者数が 2010 年の約 10 倍になっている

はい いいえ

8)異性間での梅毒感染が増えている

はい いいえ

9)若い女性での梅毒感染が増えている

はい いいえ

10)自分の名前や住所を言わずに無料で梅毒の検査が受けられる場所がある

はい いいえ

#### <HIV/エイズの意識について>

1. あなたにとって、HIV は身近なものでか。

とても身近である 身近である あまり身近でない まったく身近ではない

2. 友人や知人に HIV に感染している人はいますか。

いる いると思う いないと思う いない

3. 自分は HIV に感染する可能性があると思いますか。

ある あると思う ないと思う ない

#### <HIV/エイズ、性感染症の検査について>

1. あなたはこれまでに HIV/エイズの検査を受けたことがありますか。

受けたことがある 受けたことがない

2. 「検査を受けたことがある」と答えた方にお聞きます。どこで受けましたか。

病院、クリニック 自分の住んでいる自治体の保健所、検査所

自分の住んでいる自治体以外の保健所、検査所 健診、検診会場

郵送で 海外で

3. 「検査を受けたことがある」と答えた方にお聞きます。検査を受けようと思ったきっかけは何ですか。

気になる出来事があった 気になる症状があった

パートナー(セックスの相手)が HIV に感染していることがわかった

パートナー(セックスの相手)に検査してほしいと言われた

TV やインターネット、雑誌などの記事を見て不安になった

病院や健診の検査に含まれていた 妊娠したため

結婚を考えたため 定期的に検査することになっている

その他( )

4. 最後に検査を受けたのはいつですか。

6カ月未満 6か月以上1年未満前 1年以上3年未満前 3年以上前

5. 「検査を受けたことがない」と答えた方にお聞きします。検査を受けようと思わなかった最も大きな理由は何ですか。

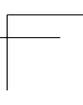
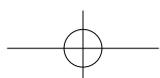
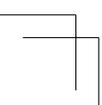
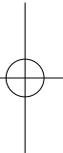
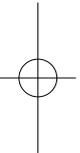
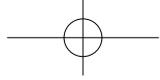
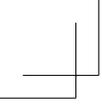
結果を知るのが怖いから 感染している可能性が無い  
あいまいなままにしておきたい 検査場所がわからない  
機会がなかった お金がかかる 周囲に HIV 感染者だと疑われる  
自分の性行動やセクシャリティを説明するのが面倒だから  
その他( )

6. 検査を受けたことがあると答えた方、ないと答えた方どちらにもお聞きします。検査を受けやすくなるのに必要だと思う条件は何ですか。(あてはまるものをいくつか)

家や職場から近い 家や職場から遠い プライバシーが守られる  
自分の性行動や性的指向を批判されない 無料である  
詳しく説明が聞ける 相談ができる 日曜祝日も受けられる  
夜間に受けられる その日のうちに結果がわかる  
日常生活の中で、検査ができる場所など検査に関する情報が手に入りやすくなる  
日常生活の中で、HIV や性感染症に関する情報提供の場が増える  
その他( )

ご協力ありがとうございました。

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表・刊行物



研究成果の刊行に関する一覧表・刊行物

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Iwata S, Okada K, <u>Kawana K.</u>	on behalf of the Expert Council on Promotion of Vaccination, Consensus statement from 17 relevant Japanese academic societies on the promotion of the human papillomavirus vaccine,	Vaccine	35(18)	2291-2292	2017
Sato M, <u>Kawana K.</u> Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T	Intracellular signaling entropy can be a biomarker for predicting the development of cervical intraepithelial neoplasia	PLOS One	12(4)	e0176353	2017

<p>Sato M,  <u>Kawana K</u>,  Adachi K,  Fujimoto A,  Yoshida M,  Nakamura H,  Nishida H,  Inoue T,  Taguchi A,  Ogishima J,  Eguchi S,  Yamashita A,  Tomio K,  Wada-  Hiraike O,  Oda K,  Nagamatsu  T, Osuga Y,  Fujii T</p>	<p>Regeneration of  cervical reserve cell-  like cells from human  induced pluripotent  stem cells (iPSCs): A  new approach to  finding targets for  cervical cancer stem  cell treatment</p>	<p>Oncotarget</p>	<p>8(25)</p>	<p>40935-40945</p>	<p>2017</p>
<p>Sato M,  <u>Kawana K</u>,  Adachi K,  Fujimoto A,  Yoshida M,  Nakamura H,  Nishida H,  Inoue T,  Taguchi A,  Ogishima J,  Eguchi S,  Yamashita A,  Tomio K,  Wada-  Hiraike O,  Oda K,  Nagamatsu  T, Osuga Y ,  Fujii T</p>	<p>Targeting glutamine  metabolism and focal  adhesion kinase  additively inhibits the  mammalian target of  the rapamycin  pathway in spheroid  cancer stem-like  properties of ovarian  clear cell carcinoma  in vitro</p>	<p>Int J Oncol,</p>	<p>50(4)</p>	<p>1431-1438</p>	<p>2017</p>

Sato M, <u>Kawana K</u> , Adachi K, Fujimoto A, Taguchi A, Fujikawa T, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Arimoto T, Wada- Hiraike Osamu, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T	Low uptake of fluorodeoxyglucose in positron emission tomography/computed tomography in ovarian clear cell carcinoma may reflect glutaminolysis of its cancer stem cell-like properties,	Oncol Reports	37(3)	1883-1888	2017
川名 敬	国内で話題の感染症— 診断と治療、ヒトパピ ローマウイルス	小児内科	49	1671-1676	2017
川名 敬	感染症フォーカス、妊 婦と感染症	INFECTION FRONT	39	8-10	2017
川名 敬	胎盤感染が問題となる ウイルス	臨床とウイル ス	45	197-202	2017

---

厚生労働科学研究費補助 エイズ対策政策研究事業  
HIV 検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究  
平成 29 年度 総括・分担研究報告書

---

発行：平成 30 年 3 月

発行者：HIV 検査の受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究

研究開発代表者 今村顕史

〒113-8677 東京都文京区本駒込 3-18-22

東京都立駒込病院 感染症科